

文 学 部

履 修 要 項

平 成 元 年 度

駒 澤 大 學

# 学 生 暦

## 前 期

- 4月8日(土) 入学式
- 10日(月) } 新入生オリエンテーション
- 14日(金) }
- 10日(月) } 在校生身分証明登録
- 20日(木) }
- 10日(月) } 在校生成績発表
- 11日(火) }
- 10日(月) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 11日(火) } 受付(学部2年次生)
- 12日(水) }
- 21日(金) } 在校生成績質疑応答
- 15日(土) } 前期授業開始
- 24日(月) } 履修届受付(学部・短大)
- 27日(木) } (学部により受付日が異なる)
- 5月8日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 12日(金) }
- 25日(木) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月10日(土) }
- 7月6日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英米文)・法学部・短大・国文・英文の1年次生および経済学部の2年次生)
- 12日(水) }
- 14日(金) } 中間試験(授業平常どおり)
- 20日(木) }
- 20日(木) } 前期授業最終日
- 21日(金) } 前期終了科目定期試験
- 22日(土) }
- 24日(月) } 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 23日(日) } 体育実技II集中授業コース
- 27日(木) } (学部2年次生)
- 26日(水) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切

## 後 期

- 9月7日(木) } 補講期間
- 14日(木) }
- 16日(土) } 後期授業開始
- 18日(月) } 前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答)および再試験申込受付
- 19日(火) }

- 25日(月) } 前期終了科目追・再試験
- 9月30日(土) } (授業平常どおり)
- 10月3日(火) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 6日(金) }
- 3日(火) } 専攻コース指定届受付
- 4日(水) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日(日) } 第107回開校記念日(全学休業)
- 11月8日(水) } 転部・転科願書受付
- 10日(金) }
- 24日(金) } 転部・転科試験
- 12月1日(金) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 11日(月) }
- 4日(月) } 編・再入学願書受付
- 8日(金) }
- 19日(火) } 冬季休暇第1日(1月6日まで)
- 19日(火) } 体育実技II集中授業コース
- 23日(土) } (学部2年次生)
- 20日(水) } 編・再入学試験

## 平成2年

- 1月8日(月) 後期授業再開
- 13日(土) 後期授業最終日
- 16日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(金) }
- 27日(土) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 2月5日(月) }
- 6日(火) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
- 6日(火) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付締切(学部1~3年次生)
- 8日(木) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
- 19日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキー)
- 23日(金) } (学部2年次生)
- 23日(金) } 成績発表(質疑応答)および追・再試験
- 20日(水) } 験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 24日(土) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- 3月2日(金) } および追試験(学部1~3年次生)
- 19日(月) } 卒業生名簿発表
- 25日(日) } 卒業式

# 学 生 暦 訂 正

## 教務部窓口（本部棟1階） および掲示板案内訂正

平成2年

1月8日(月)	後期授業再開
13日(土)	後期授業最終日
16日(火)	} 定期試験(専門・基礎・教職科目)
26日(金)	
27日(土)	
2月5日(月)	} 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
6日(火)	
6日(火)	定期試験欠試験受付締切(学部4年次生・短大生)
6日(火)	定期試験欠試験(追試験申込)受付締切(学部1～3年次生)
8日(木)	卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
19日(月)	} 体育実技IIシーズン・コース(スキー) (学部2年次生)
23日(金)	
19日(月)	} 成績発表(質疑応答)および追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
20日(火)	
24日(土)	} 追・再試験(学部4年次生・短大生) および追試験(学部1～3年次生)
3月2日(金)	
19日(月)	卒業生名簿発表
25日(日)	卒業式

- ①教職課程  
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座  
社会福祉主事講座  
社会教育主事講座
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行  
<健康診断書および在学証明書は学生部>  
※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願 (休学・復学・退学・死亡  
改氏名・本籍地変更・保証人変更  
保証人住所変更・聴講)
- ⑥大学院関係・留学生関係  
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届  
卒業証書・転部転科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談  
学部演習 (仏教学部・経済学部  
法学部・経営学部)

## 他学部履修科目目次訂正

中国仏教史(佐藤 達玄)……………	1	2	地方自治法(梅木 崇)……………	9	10
近代文学(片岡 懋)……………	2	3	経営統計(後藤 儀一郎)……………	10	11
英米演劇特講(落合 和昭)………	3	4	国文講読Ⅲ(中世)(岡崎 正)…	11	12
都市地理学(今朝洞 重美)………	4	5	臨床放射線特論Ⅰ(本間 襄)…	12	13
財務会計論(遠藤 孝)……………	7	8	応用計測学(榎尾 英次)……………	12	13

※太文字は訂正箇所です。



# 目 次

## I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 ..... (1)
2. 授業科目の単位計算 ..... (1)
3. 授業科目の区分 ..... (1)

## II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 ..... (2)
2. 卒業論文 ..... (13)
3. 学 士 号 ..... (13)

## III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 ..... (14)
2. 外国語科目の履修方法 ..... (16)
3. 保健体育科目の履修方法 ..... (19)
4. 基礎教育科目の履修方法 ..... (20)
5. 専門教育科目の履修方法 ..... (20)
6. 他学部科目の履修方法 ..... (40)
7. 随意科目の履修方法 ..... (42)
8. 再履修科目の履修方法 ..... (42)
  - ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 ..... (42)
  - ※ 授業科目のコード番号について ..... (43)

## IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 ..... (44)
2. 履修届記入上の注意 ..... (45)
3. 履修届（時間割）の作成順序 ..... (46)

## V 試験および成績評価

1. 定期試験 ..... (48)
2. 中間試験 ..... (48)
3. 追・再試験 ..... (48)
4. 受験心得 ..... (49)
5. 成績評価・単位認定 ..... (49)
6. 試験時間 ..... (49)

VI	進級について	(50)
VII	クラス制およびクラス主任	(51)
VIII	教職課程・資格講座	(51)
IX	事務取扱いについて	
1.	成績発表・成績証明書	(52)
2.	授業時間	(52)
3.	事務室の事務受付時間	(52)
4.	休講	(52)
5.	掲示	(52)
6.	問い合わせ	(52)
X	学籍について	
1.	修業年限と在学年数	(53)
2.	休学	(53)
3.	復学	(53)
4.	退学	(54)
5.	除籍	(54)
6.	懲戒	(54)
7.	編入学(学士入学)	(54)
8.	再入学	(54)
9.	転部・転科	(54)
10.	留学	(55)
11.	学生氏名・保証人	(55)
12.	学生番号	(55)
XI	既修得単位の認定について	(56)
XII	届書・願書について	(57)
XIII	各種証明書取扱い窓口	(58)
	試験実施規程(抜粋)	(59)
	講義内容	(61)

# I 単位制と学年制

## 1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学年数は4年以上（7年を超えてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

## 2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

## 3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 他学部科目（選択科目）
7. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

- (a) 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
- (b) 選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
- (c) 選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

## Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

### 1. 卒業に必要な単位数

#### 国文学科

##### A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

##### B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

## 英米文学科

### A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

### B. 昭和58・59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

# 英米文学科

## C. 昭和57年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教	育科目	5	12	12	
専門教育科目	必修	6	24	72	
	選択		40		
	卒業論文(必修)		8		

## 地理学科

### A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

### B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

## 歴史学科

〔日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻〕

### A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

### B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

[考古学専攻]

A. 昭和62年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	10	38	72	
	選択		26		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60・61年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

[考古学専攻]

C. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒 業 論 文 ( 必 修 )		8		

社会学科  
〔社会学コース〕

A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教	育科目	3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

[社会福祉コース]

A. 昭和63年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	13	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60~62年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

C. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

[心理学コース]

A. 昭和60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	8	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	8	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

## 2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

### イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（木）～6月10日（土）正午まで（教務部⑥番窓口）

### ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

### ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（金）～11日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

〔提出期限に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

### ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い合否を判定する。

口頭試問日 2月8日（木）

## 3. 学 士 号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

文学部	国文学科	}……………	文学士
	英米文学科		
	地理学科		
	歴史学科		
	社会学科		

### Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

#### 授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に担当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。）
- ハ. 各学年に担当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に担当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

#### 1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学 科 \ 分 野	人 文 分 野	社 会 分 野	自 然 分 野	計
国 文 学 科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英 米 文 学 科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地 理 学 科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴 史 学 科	16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社 会 学 科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ ( ) 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人 文 分 野			社 会 分 野				自 然 分 野		
	授 業 科 目	単 位	修得単位	授 業 科 目	単 位	修得単位	備 考	授 業 科 目	単 位	修得単位
国 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法 2単位を含む) (2年次)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取 得し よう とす るも のは 「法 学憲 法」 を必 修と する。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	論 理 学	4		地 理 学	4					
	歴 史 学	4								
	芸 術 学 (日本美術)	4								
	芸 術 学 (西洋美術)	4								
英 米 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取 得し よう とす るも のは 「法 学憲 法」 を必 修と する。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	論 理 学	4		地 理 学	4					
	歴 史 学	4								
	芸 術 学 (日本美術)	4								
	芸 術 学 (西洋美術)	4								
地 理 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取 得し よう とす るも のは 「法 学憲 法」 を必 修と する。	数 学	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			物 理 学	4	
	哲 学	4		社 会 学	4			化 学	4	
	文 学	4		文 化 人 類 学	4			生 物 学	4	
	芸 術 学 (日本美術)	4								
	芸 術 学 (西洋美術)	4								
歴 史 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取 得し よう とす るも のは 「法 学憲 法」 を必 修と する。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			地 学	4	
	哲 学	4		社 会 学	4			心 理 学	4	
	論 理 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	文 学	4								
	芸 術 学 (日本美術)	4								
	芸 術 学 (西洋美術)	4								
社 会 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法 2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取 得し よう とす るも のは 「法 学憲 法」 を必 修と する。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		政 治 学	4			生 物 学	4	
	論 理 学	4		経 済 学	4			地 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4								
	芸 術 学 (日本美術)	4								
	芸 術 学 (西洋美術)	4								

※「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

## 2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになり、その2ヵ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

### 第1外国語

学科 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
2年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
3年次	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—
計	4	8	5	10	4	8	4	8	4	8

### 第2外国語

学科 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4

### 1年次の履修

6ヵ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 1G	2		1G・1Rの2科目を必修とする。ただし1Gは「英会話I（定員40名）」または「英語LLI（定員30名）」に振り替えできる。（ただし英米文学科は「英会話I」に振り替えできない。）なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語 1R	2		
英会話 I	2		
英語 L L I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語 1G	2	文 法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語1G・1Rの2科目を必修とする。
ドイツ語 1R	2	講 読	
フランス語 1G	2	文 法	
フランス語 1R	2	講 読	
中国語 1G	2	文 法	
中国語 1R	2	講 読	
スペイン語 1G	2	文 法	
スペイン語 1R	2	講 読	
ロシア語 1G	2	文 法	
ロシア語 1R	2	講 読	

#### ※ 英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

#### ※ L L…………ランゲージ・ラボラトリー

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

## 2年次の履修

1年次で履修の2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修とすること。ただし、英米文学科は英語を第1外国語とする。

授 業 科 目	単位	科 目 内 容	授 業 科 目	単位	科 目 内 容
英 語 2 A I	2		中 国 語 2 A I	2	講 読
英 語 2 A II	2		中 国 語 2 A II	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A I	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A I	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A II	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A II	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A I	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A I	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A II	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A II	2	講 読

### ※ 英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達的能力を発展させ、応用力を修得する。

## 3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 3 A	2	講 読	3 A を 1 科 目 必 修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

## 外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次の7月6日（木）～12日（水）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。（ただし、英米文学科は『英語』のため登録の必要がない。）なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、必ず行うこと。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

### 3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

#### A. 昭和60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

#### B. 昭和59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前 期 ま た は 後 期
実 技	体 育 実 技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

#### 4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉原論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB (会話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB (会話)	2						

(注意) 「基礎自然地理学」は「基礎地学(自然地理学)」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学(人文地理学)」を、「社会福祉原論」は「社会福祉概論」を名称変更したものである。

#### 5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科		地理学科	歴史学科			社会学科			
		昭和58年度以降入学生適用	昭和57年度以前入学生適用		日本史 東洋史 西洋史	考古学		社会学	社会福祉		心理学
						昭和62年度以降入学生適用	昭和61年度以前入学生適用		昭和63年度以降入学生適用	昭和62年度以前入学生適用	
必修科目	36 (12)	28 (7)	24 (6)	16 (6)	32 (8)	38 (10)	32 (8)	48 (12)	48 (13)	48 (12)	28 (8)
選択科目	28	36	40	48	32	26	32	16	16	16	36
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

※ ( ) 内の数字は科目数

# 国文学科

## 必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国 文 学 講 読 I	2		国 文 学 研 究	4	
2 年 次 必 修			国 文 学 史 ( 上 代 )	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 3 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 し た 科 目 以外 を 履 修 す る こ と。
国 語 学 概 論	4		国 文 学 史 ( 中 古 )	4	
国 文 学 概 論	4		国 文 学 史 ( 中 世 )	4	
国 文 学 講 読 II	2		国 文 学 史 ( 近 世 )	4	
中 国 文 学 講 読	2		国 文 学 史 ( 近 代 )	4	
3 年 次 必 修			国 語 学 演 習 II	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と。
国 文 学 史 ( 上 代 )	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	国 文 学 演 習 II ( 上 代 )	2	
国 文 学 史 ( 中 古 )	4		国 文 学 演 習 II ( 中 古 )	2	
国 文 学 史 ( 中 世 )	4		国 文 学 演 習 II ( 中 世 )	2	
国 文 学 史 ( 近 世 )	4		国 文 学 演 習 II ( 近 世 )	2	
国 文 学 史 ( 近 代 )	4		国 文 学 演 習 II ( 近 代 )	2	
国 語 学 研 究	4		卒 業 論 文	8	13 頁 参 照
国 文 学 講 読 III	2				
国 語 学 演 習 I	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 原 則 として 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と。			
国 文 学 演 習 I ( 上 代 )	2				
国 文 学 演 習 I ( 中 古 )	2				
国 文 学 演 習 I ( 中 世 )	2				
国 文 学 演 習 I ( 近 世 )	2				
国 文 学 演 習 I ( 近 代 )	2				

(注意) 3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

選 択 科 目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A 群	上 代 文 学	4		国 文 学 特 講 II	4	
	中 古 文 学	4		国 文 学 特 講 III	4	
	中 世 文 学	4		国 文 学 特 講 IV	4	
	近 世 文 学	4		国 文 学 史 (上代)	4	選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること。
	近 代 文 学	4		国 文 学 史 (中古)	4	
	国 語 史	4	} 隔年開講	国 文 学 史 (中世)	4	
	国 語 学 史	4		休 講	国 文 学 史 (近世)	
	文 学 概 論	4	休 講	国 文 学 史 (近代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	} 2年次生のみ履修すること。
	有 職 故 実	4	休 講	近 代 文 学 講 読	2	
国 文 学 特 講 I	4					

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B 群	中 国 文 学	4		日 本 文 化 史 I	4	} 隔年開講
	中 国 文 学 演 習	4		日 本 文 化 史 II	4	
	中 国 文 学 概 論	4		現 代 美 術	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 I	4	
	英 米 文 化	4		書 道 実 習 II	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 I	4	古代・中世	美 術 史	2	半期科目
	日 本 史 概 説 II	4	近世・近代	書 道 史	2	半期科目
日 本 民 俗 学	4		編 集 実 務	2	半期科目	

(注意) 「国文学特講」のI・II・III・IVは、時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上、「B群」より2科目以上選び履修されたい。

# 英米文学科

## 必修科目

### A. 昭和58年度以降入学生適用 (36単位)

2年次必修			4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		卒業論文	8	13頁参照
英作文 I	4		2年次・3年次必修		
3年次必修			英文学史 I	4	※ 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
音声学	4		英文学史 II	4	
英語史	4		米文学史	4	
シェイクスピア	4				

※「英文学史 I」・「英文学史 II」・「米文学史」のうち2科目を選択必修とし、残りの1科目は専門選択科目として履修できない。

### B. 昭和57年度以前入学生適用 (32単位)

2年次必修			2年次または3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		英文学史 I	4	} 1科目4単位 選択必修
3年次必修			英文学史 II	4	
音声学	4	旧「英語学研究」	米文学史	4	
英語史	4		3年次または4年次必修		
4年次必修			批評論研究	4	
卒業論文	8	13頁参照	シェイクスピア	4	

選 択 科 目

A. 昭和58年度以降入学生適用 (36単位以上)

B. 昭和57年度以前入学生適用 (40単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 文 学 史 I	4	2・3・4	※イ 必修とした科目以外を履修すること。	英 文 学 演 習 I (中 世)	4	3・4	
英 文 学 史 II	4	2・3・4		英 文 学 演 習 II (英文学16・17c.)	4	3・4	
米 文 学 史	4	2・3・4		英 文 学 演 習 IV (英文学18c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 I (英文学16・17c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 V (詩19・20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 II (英文学18c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 VI (小説I 19c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 III (詩19・20c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VII (小説II 20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 IV (小説I 19c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VIII (批評19・20c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 V (小説II 20c.)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 I (詩)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 VI (批評19・20c.)	4	3・4		米 文 学 演 習 II (小説I)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 I (詩)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 III (小説II)	4	3・4	
米 文 学 特 講 II (小説I)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 IV (小説III)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 III (小説II)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 V (批評)	4	3・4	
米 文 学 特 講 IV (小説III)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 VI (小説IV)	4	3・4	
米 文 学 特 講 V (批評)	4	3・4		英 米 演 劇 演 習	4	2・3・4	
英 米 演 劇 特 講	4	2・3・4		時 事 英 語	4	2・3・4	旧「英米時文研究」
英 作 文 I	4	3・4	※ロ	商 業 英 語	4	3・4	
英 米 語 学 演 習 (言語学)	4	3・4	旧「英米語学演習(英語学)」	ラ テ ン 語 特 講	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英語史)	4	3・4		英 米 文 化	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英文法)	4	3・4		日 本 文 化 史 I	4	2・3・4	} 隔年開講 休講
英 米 語 学 演 習 (英作文II)	4	3・4	※ハ	日 本 文 化 史 II	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英会話)	2	3・4		現 代 美 術	4	2・3・4	

※イ. 昭和57年度以前入学生適用

※ロ. 昭和57年度以前入学生適用 旧「英米語学演習(英作文)」。

※ハ. 昭和58年度以降入学生適用

(注意) 同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇ 演習科目の履修方法

I) 履修科目数

- イ. 2・3・4年次に演習1科目（4単位）ずつ、あわせて3科目（12単位）を極力履修すること。
- ロ. 2年次で履修できる演習科目は1科目とする。
- ハ. 3年次で履修できる演習科目は3科目以内とする。
- ニ. 4年次で履修できる演習科目は2科目以内とする。

II) 履修上の注意

- イ. 各種演習科目とも先着50名で締め切る。なお、教務部に『単位履修届』を提出する前に、受講希望の科目担当の先生に本人が直接届け出て『単位履修届』に捺印を受けること。
- ロ. 担当の先生に届け出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。
- ハ. 昭和57年度以前入学生で（旧）「英米語学演習（英作文）」の履修希望者は、「英作文Ⅰ」を履修すること。なお、その場合「英作文Ⅰ」の4講座のうちいずれかひとつを選択し、担当の先生に本人が直接届け出て『単位履修届』に捺印を受けること。捺印の日時は、他の演習科目と同じとする。

地理学科

必修科目 (24単位)

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (13頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

(注意) 「地理学演習」および「野外巡検（Ⅰ・Ⅱ）」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選 択 科 目 (48単位以上)

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		歴 史 地 理 学	4	
集 落 地 理 学	4		人 口 地 理 学	4	
郷 土 地 理 学	4		経 済 地 理 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		原 書 講 読	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 II	4	
地 図 学	4		外 国 地 誌 II	4	
日 本 地 誌 I	4		地 理 学 特 講 I	2	半期科目
外 国 地 誌 I	4		3 ・ 4 年 次 選 択		
3 年 次 選 択			文 化 地 理 学	4	
地 質 学	4		都 市 地 理 学	4	
地 球 物 理 学	4		計 量 地 理 学	4	
地 形 学 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
気 候 学	4		日 本 地 誌 III	4	
土 壌 地 理 学	4		外 国 地 誌 III	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		応 用 地 理 学 I	4	
環 境 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	

(注意) 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし、下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎ 測量士補資格について

地理学科の学生で、「地図学」・「空中写真判読法及び測量学」・「自然地理学実習」・「地理学演習」の単位を修得し、さらに「地形学（I・II）」・「地質学」・「地球物理学」・「応用地理学（I・II）」のうち2科目の単位を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1ヵ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届け出ること。）

必修科目

(1) 日本史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考古学）に振り替える。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ（古代・中世）	4		演習Ⅱ（日本史）	4	
日本史概説Ⅱ（近世・近代）	4		卒業論文	8	13頁参照
東洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4	} 2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
西洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4				
西洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
考古学概説Ⅰ（日本）	4				
考古学概説Ⅱ（外国）	4				

(2) 東洋史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（東洋史）	4	演習Ⅰ（考古学）に振り替える。
東洋史学史	4		4年次必修		
東洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4		演習Ⅱ（東洋史）	4	
東洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4		卒業論文	8	13頁参照
日本史概説Ⅰ（古代・中世）	4	} 2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
西洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4				
西洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
考古学概説Ⅰ（日本）	4				
考古学概説Ⅱ（外国）	4				

(3) 西洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(西洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替える。
西洋史学史	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(西洋史)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	13頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(4) 考古学専攻

A. 昭和62年度以降入学生適用 (46単位)

2・3・4年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		考古学実習(写真)	4	} 1科目4単位 選択必修
考古学史	4		考古学実習(測量)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		考古学実習(石器)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		考古学実習(土器)	4	
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修	3年次必修		
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		考古発掘実習	2	
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰに振り替える。
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	13頁参照

B. 昭和61年度以前入学生適用 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰに振り替える。
考古学史	4		4年次必修		
考古学概説Ⅰ(日本)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		卒業論文	8	13頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	} 2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				

選 択 科 目（2年次以降の履修科目）

日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻（32単位以上）

考古学専攻（昭和62年度以降入学生適用，26単位以上）

（昭和61年度以前入学生適用，32単位以上）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 史 各 説 I	4		東洋史特講 I（古 代）	4	旧「東洋史特講Ⅶ」
日 本 史 各 説 II	4		東洋史特講 II（古 代）	4	休 講
日 本 史 各 説 III	4		東洋史特講 III（古 代）	4	休 講
日 本 史 各 説 IV	4		東洋史特講 IV（中 世）	4	
東洋史各説 I（古 代）	4	旧「東洋史各説Ⅱ」 休 講	東洋史特講 V（中 世）	4	休 講
東洋史各説 II（古 代）	4		東洋史特講 VI（中 世）	4	旧「東洋史特講Ⅲ・Ⅵ」 休 講
東洋史各説 III（中 世）	4	旧「東洋史各説Ⅰ」 休 講	東洋史特講 VII（近 世）	4	
東洋史各説 IV（中 世）	4		東洋史特講 VIII（近 世）	4	休 講
東洋史各説 V（近 世）	4	旧「東洋史各説Ⅲ」 休 講	東洋史特講 IX（近 世）	4	
東洋史各説 VI（近 世）	4		東洋史特講 X（近・現代）	4	
東洋史各説 VII（近・現代）	4		東洋史特講 XI（近・現代）	4	旧「東洋史特講Ⅳ」
東洋史各説 VIII（周 辺 史）	4		東洋史特講 XII（近・現代）	4	旧「東洋史特講Ⅱ」 休 講
東洋史各説 IX（周 辺 史）	4	旧「東洋史各説Ⅳ」	東洋史特講 XIII（周 辺 史）	4	旧「東洋史特講Ⅴ」
東洋史各説 X（周 辺 史）	4	旧「東洋史各説Ⅱ」	東洋史特講 XIV（周 辺 史）	4	旧「東洋史特講Ⅰ」
西 洋 史 各 説 I	4		東洋史特講 XV（周 辺 史）	4	
西 洋 史 各 説 II	4	休 講	西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4		西 洋 史 特 講 II	4	休 講
西 洋 史 各 説 IV	4	休 講	西 洋 史 特 講 III	4	
考 古 学 各 説 I	4	休 講	西 洋 史 特 講 IV	4	
考 古 学 各 説 II	4	休 講	西 洋 史 特 講 V	4	休 講
考 古 学 各 説 III	4		西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4		西 洋 各 国 史 II	4	
日本史特講 I（古 代）	4	休 講	西 洋 各 国 史 III	4	休 講
日本史特講 II（中 世）	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日本史特講 III（中 世）	4		考 古 学 特 講 I	4	休 講
日本史特講 IV（近 世）	4		考 古 学 特 講 II	4	
日本史特講 V（近 世）	4		考 古 学 特 講 III	4	休 講
日本史特講 VI（近 代）	4		考 古 学 特 講 IV	4	} 隔年開講
日本史特講 VII（近 代）	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古 文 書 講 読 I	4		人 文 地 理 学 概 説	4	
古 文 書 講 読 II	4		地 誌 学	4	
日 本 仏 教 史 I	4		哲 学 史	4	
日 本 仏 教 史 II	4	休 講	歴 史 哲 学	4	
日 本 仏 教 史 III	4	休 講	仏 教 美 術	4	
日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔 年 開 講	西 域 美 術 史	4	
日 本 文 化 史 II	4		美 術 史 概 説	4	
西 洋 文 化 史 I	4	休 講	ラ テ ン 語 特 講	4	
西 洋 文 化 史 II	4	休 講	演 習 I	4	※イ ※ロ
西 洋 文 化 史 III	4		演 習 II	4	
考 古 学 実 習 (写 真)	4	} (注) ※イ	日 本 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	} (注)
考 古 学 実 習 (測 量)	4		日 本 史 概 説 II (近 世・近 代)	4	
考 古 学 実 習 (石 器)	4		東 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	
考 古 学 実 習 (土 器)	4		東 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	4	
考 古 発 掘 実 習	2		西 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	
有 職 故 実	4		休 講	西 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	
中 国 歴 史 文 学	4		考 古 学 概 説 I (日 本)	4	
日 本 民 俗 学	4		考 古 学 概 説 II (外 国)	4	
歴 史 地 理 学	4				

※イ. 3年次の履修科目

※ロ. 4年次の履修科目

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
東 洋 史 特 講 I (古 代)	— 東 洋 史 特 講 VII (古 代 史)	東 洋 史 各 説 I (古 代)	— 東 洋 史 各 説 II
東 洋 史 特 講 VI (中 世)	— 東 洋 史 特 講 III (中 世 史)	東 洋 史 各 説 III (中 世)	— 東 洋 史 各 説 I
	東 洋 史 特 講 VI (中 世 史)	東 洋 史 各 説 V (近 世)	— 東 洋 史 各 説 III
東 洋 史 特 講 XI (近・現 代)	— 東 洋 史 特 講 IV (近 代・現 代 史)	東 洋 史 各 説 IX (周 辺 史)	— 東 洋 史 各 説 IV
東 洋 史 特 講 XII (近・現 代)	— 東 洋 史 特 講 II (近 世・近 代 史)	東 洋 史 各 説 X (周 辺 史)	— 東 洋 史 各 説 II
東 洋 史 特 講 XIII (周 辺 史)	— 東 洋 史 特 講 V (西・中 央 周 辺 史)		(昭 和 59 年 度 光 顧 担 当 分)
東 洋 史 特 講 XIV (周 辺 史)	— 東 洋 史 特 講 I (中 国 周 辺 史)	考 古 学 実 習 (写 真)	— 考 古 学 実 習 I (写 真)
		考 古 学 実 習 (測 量)	— 考 古 学 実 習 III (測 量)
		考 古 学 実 習 (石 器)	— 考 古 学 実 習 II (記 録)
		考 古 学 実 習 (土 器)	— 考 古 学 実 習 IV (調 査)

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届け出ること。）

(1) 社会学コース

必修科目 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修			
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	} 5科目20単位 選択必修	
社会学史	4		産業社会学	4		
社会学方法論	4		都市社会学	4		
3年次必修			農村社会学	4		
社会調査	4		家族社会学	4		
社会調査実習	4		法社会学	4		
演習Ⅰ	4	社会	宗教社会学	4		
4年次必修			社会心理学	4		
演習Ⅱ	4	社会	社会病理学	4		
卒業論文	8	13頁参照	外書講読Ⅰ	4		
			外書講読Ⅱ	4		
			社会学特講Ⅰ	4		
			社会学特講Ⅱ	4		休講
			社会学特講Ⅲ	4		休講

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選 択 科 目 (16単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
マスコミュニケーション	4	}	図 書 館 学 II	4	
産 業 社 会 学	4		社会福祉援助技術総論	4	旧「社会福祉方法総論」
都 市 社 会 学	4		法 学 (福 祉)	4	旧「社会福祉法制」
農 村 社 会 学	4		社 会 保 障 論	4	旧「社会保障概論」
家 族 社 会 学	4		老 人 福 祉 論	4	
法 社 会 学	4		児 童 福 祉 論	4	
宗 教 社 会 学	4		地 域 福 祉 論	4	
社 会 心 理 学	4		基 礎 心 理 学 I	4	
社 会 病 理 学	4		産 業 心 理 学	4	
外 書 講 読 I	4		グループ・ダイナミックス	4	休 講
外 書 講 読 II	4		民 法	4	
社 会 学 特 講 I	4		労 働 法	4	
社 会 学 特 講 II	4		行 政 法	4	
社 会 学 特 講 III	4		休 講	経 済 原 論	4
社 会 学 原 論	4			社 会 政 策	4
図 書 館 学 I	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
社会福祉援助技術総論	— 社会福祉方法総論
法 学 (福 祉)	— 社会福祉法制
社 会 保 障 論	— 社会保障概論

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 昭和63年度以降入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修				
授 業 科 目	単 位	備 考	部 門	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会福祉調査論	2		方法・援助技術部門	社会福祉援助技術各論ⅠA	4	} 3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	
社会福祉援助技術総論	4	※		社会福祉援助技術各論ⅠB	4		※
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※		社会福祉援助技術各論ⅡA	4		※
法 学 (福 祉)	4	※		リハビリテーション論	4		
				社会福祉計画論	4		
				社会福祉運営論	4		
3 年 次 必 修			分 野 部 門	家 族 福 祉 論	4	} 3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	
演 習 Ⅰ	4	社会福祉		児 童 福 祉 論	4		※
社会福祉調査実習	2			障 害 者 福 祉 論	4		※
				老 人 福 祉 論	4		※
4 年 次 必 修				地 域 福 祉 論	4		※
演 習 Ⅱ	4	社会福祉		公 的 扶 助 論	4		※
卒 業 論 文	8	13頁参照		医 療 福 祉 論	4		
				婦 人 福 祉 論	4		
				保 健 福 祉 論	4		

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】イ. 本カリキュラムは『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づいている。

ロ. ※印および※印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に※印は指定科目のうち的基础科目である。→ (※)

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ハ. 3年次選択科目の「社会福祉援助技術現場実習」および「社会福祉援助技術演習(Ⅰ・Ⅱ)」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

ニ. 「社会福祉援助技術実習」(2年次選択科目)および「社会福祉援助技術現場実習」(3年次選択科目)の履修時には、本学が定める実習費を別に納入しなければならない。

選択科目

A. 昭和63年度以降入学生適用（16単位以上）

2 年 次 選 択			2・3・4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉援助技術実習	2	※	社 会 保 障 論	4	※
			社会福祉発達史	4	
3 年 次 選 択			社会福祉外書講読	4	
社会福祉援助技術現場実習	4	※	海 外 社 会 福 祉 論	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	社 会 学(福 祉)	4	※
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	心 理 学(福 祉)	4	※
			医 学 一 般	4	※
2・3・4 年 次 選 択			介 護 概 論	4	※
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※	障 害 児 教 育 原 論	4	
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※	障 害 児 教 育 方 法 論	4	休 講
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障 害 児 病 理	4	休 講
リハビリテーション論	4		障 害 児 心 理	4	休 講
社会福祉計画論	4		家 族 社 会 学	4	
社会福祉運営論	4		法 社 会 学	4	
家族福祉論	4		産 業 社 会 学	4	
児童福祉論	4	※ (注)	社 会 病 理 学	4	
障害者福祉論	4	※	心 理 検 査 法	4	
老人福祉論	4	※	グ ル ー プ ・ ダ イ ナ ミ ッ ク ス	4	休 講
地域福祉論	4	※	カ ウ ン セ リ ン グ	4	
公的扶助論	4	※	精 神 医 学	4	
医療福祉論	4		精 神 病 理 学	4	休 講
婦人福祉論	4		図 書 館 学 Ⅰ	4	
保健福祉論	4		図 書 館 学 Ⅱ	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		社 会 政 策	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		行 政 法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		労 働 法	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		民 法	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4	休 講	経 済 原 論	4	

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

必修科目

B. 昭和62年度以前入学生適用 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会保険論	4	◎旧「社会保障概論」	公的扶助論	4	◎
法学(福祉)	4	◎旧「社会福祉法制」	障害者福祉論	4	◎旧「障害福祉論」
社会福祉援助技術総論	4	※旧「社会福祉方法総論」	老人福祉論	4	◎
			児童福祉論	4	◎
3年次必修			婦人福祉論	4	旧「母子福祉論」
社会福祉実習Ⅰ	4	※	医療福祉論	4	旧「医療社会事業論」
演習Ⅰ	4	社会福祉	地域福祉論	4	◎
			社会福祉発達史	4	旧「社会福祉事業発達史」
4年次必修			社会福祉運営論	4	旧「社会福祉管理運営論」
演習Ⅱ	4	社会福祉	社会福祉外書講読	4	旧「福祉外書講読」
卒業論文	8	13頁参照	リハビリテーション論	4	
			社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※旧「社会福祉調査論」

A群 (3科目12単位選択必修)  
B群 (3科目12単位選択必修)

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】イ. 本カリキュラムは昭和63年度から実施される『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づき改定した。

ロ. 社会福祉士国家試験の受験資格取得希望学生は、指定科目をすべて履修できるよう特別の配慮がしてある。

ハ. ※印および◎印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に◎印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ニ. 選択科目の「社会福祉援助技術演習(Ⅰ・Ⅱ)」および「社会福祉援助技術現場実習」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

[名称変更科目] 旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新名称	旧名称	新名称	旧名称
社会福祉原論	社会福祉概論	婦人福祉論	母子福祉論
法学(福祉)	社会福祉法制	社会保険論	社会保障概論
社会福祉援助技術総論	社会福祉方法総論	社会福祉発達史	社会福祉事業発達史
社会福祉援助技術各論ⅠA	ケースワーク論	社会福祉運営論	社会福祉管理運営論
社会福祉援助技術各論ⅠB	グループワーク論	社会福祉外書講読	福祉外書講読
障害者福祉論	障害福祉論	社会福祉援助技術現場実習	社会福祉実習Ⅱ
医療福祉論	医療社会事業論	社会福祉援助技術各論ⅡB	社会福祉調査論

選択科目

B. 昭和62年度以前入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	※	社会学（福祉）	4	※
障害者福祉論	4	※旧「障害福祉論」	心理学（福祉）	4	※
老人福祉論	4	※	医学一般	4	※
児童福祉論	4	※	介護概論	4	※
婦人福祉論	4	旧「母子福祉論」	心理検査法	4	
医療福祉論	4	旧「医療社会事業論」	グループ・ダイナミクス	4	休講
地域福祉論	4	※	カウンセリング	4	
社会福祉発達史	4	旧「社会福祉事業発達史」	精神医学	4	
社会福祉運営論	4	旧「社会福祉管理運営論」	精神病理学	4	休講
社会福祉外書講読	4	旧「福祉外書講読」	産業社会学	4	
リハビリテーション論	4		家族社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※旧「社会福祉調査論」	法社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※旧「ケースワーク論」	社会病理学	4	
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※旧「グループワーク論」	障害児教育原論	4	
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障害児教育方法論	4	休講
海外社会福祉論	4		障害児病理	4	休講
社会福祉学特講Ⅰ	4		障害児心理	4	休講
社会福祉学特講Ⅱ	4		図書館学Ⅰ	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		図書館学Ⅱ	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		社会政策	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4	休講	行政法	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	労働法	4	
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	民法	4	
社会福祉計画論	4		経済原論	4	
社会福祉調査論	2	昭和63年度新設科目			
社会福祉調査実習	2		3・4年次選択		
家族福祉論	4		社会福祉援助技術現場実習	4	※旧「社会福祉実習Ⅱ」
保健福祉論	4				

（注意） 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。  
「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

〔廃講科目〕

基礎心理学Ⅰ・基礎心理学Ⅱ・社会心理学・宗教社会学・都市社会学・農村社会学・青少年問題研究

(3) 心理学コース  
必修科目(36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ(実習)	2	} 1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2		心理学研究Ⅴ(実習)	2	
基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	} 1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 休 講	心理学研究Ⅵ(実習)	2	} 1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 { 2 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 し た 科 目 } 休 講
基 礎 心 理 学 Ⅱ	4		基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅲ	4		基 礎 心 理 学 Ⅱ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅳ	4		基 礎 心 理 学 Ⅲ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅴ	4		基 礎 心 理 学 Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 Ⅴ	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ(実習)	2	} 休 講	演 習	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		卒 業 論 文	8	13頁参照

(注意) 「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

選 択 科 目 (36単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅰ	4	必修として履修した科目以外を履修すること。 休講	心理学特講Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅱ	4		心理学特講Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		精神医学	4	
基礎心理学Ⅳ	4		精神病理学	4	休講
基礎心理学Ⅴ	4		心身医学	4	休講
心理学研究Ⅰ(実習)	2	3・4年次選択 3年次で必修とした科目以外を履修すること。 休講	宗教社会学	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		社会病理学	4	
心理学研究Ⅴ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		社会福祉援助技術総論	4	旧「社会福祉方法総論」
生理心理学	4		障害者福祉論	4	旧「障害福祉論」
児童心理学	4		老人福祉論	4	
産業心理学	4		児童福祉論	4	
グループ・ダイナミックス	4	休講	民法	4	
カウンセリング	4		経済原論	4	
心理検査法	4		行政法	4	
禅心理学	4		労働法	4	
心理学特講Ⅰ	4				

(注意) 2年次における「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の選択科目としての履修は、3科目以内とする。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
社会福祉援助技術総論	— 社会福祉方法総論
障害者福祉論	— 障害福祉論

## 6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

### イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。(他学部履修科目一覧表 参照)

### ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

### ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

### ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目(他学部履修科目を含む)その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

### ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード(005…)で登録すること。
- (3) 同一名称(開設学科が異なる)の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

### ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』(P.42)を参照のこと。

### ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考
禅学科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		経済学科	ソビエト経済論	4	3・4	
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			社会政策	4	3・4	社会学科 除く
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			国民所得論	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			中国経済論	4	3・4	
	禅学思想史	4	3・4			アジア経済論	4	3・4	
	哲学史	4	3・4	歴史学科 除く		日本経済史	4	3・4	
仏教学科	印度仏教史	4	3・4		商学科	中小企業論	4	3・4	
	中国仏教史	4	3・4			教育経済論	4	3・4	地理学科 除く
	日本仏教史	4	3・4			アメリカ経済論	4	3・4	
	日用経典	4	3・4			財務会計論	4	3・4	
	仏教美術	4	3・4	歴史学科 除く		管理会計論	4	3・4	
	現代哲学概説	4	3・4			会計監査論	4	3・4	
国文学科	上代文学	4	3・4	国文学科 除く	商学科	商業政策	4	3・4	
	中世文学	4	3・4	国文学科 除く		貿易論	4	3・4	
	近世文学	4	3・4	国文学科 除く		マーケティング	4	3・4	
	近代文学	4	3・4	国文学科 除く		原価計算論	4	3・4	
	中国文学	4	3・4	国・歴史学科 除く		労務管理論	4	3・4	
英米文学科	英文学特講Ⅰ(英文学16・17c)	4	3・4	英米文学科 除く	法律学科	行政法Ⅱ	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ(英文学18c)	4	3・4	英米文学科 除く		民法Ⅳ(1)	4	3・4	社会学科 除く
	英文学特講Ⅲ(詩19・20c)	4	3・4	英米文学科 除く		民法Ⅳ(2)	4	4	
	英文学特講Ⅳ(小説Ⅰ 19c)	4	3・4	英米文学科 除く	政治学科	比較憲法	4	3・4	
	英文学特講Ⅴ(小説Ⅱ 20c)	4	3・4	英米文学科 除く		地方自治法	4	3・4	
	英文学特講Ⅵ(批評19・20c)	4	3・4	英米文学科 除く		経済法	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4	英米文学科 除く		国際関係論	4	3・4	
	米文学特講Ⅰ(詩)	4	3・4	英米文学科 除く		西洋政治史	4	3・4	
	米文学特講Ⅲ(小説Ⅱ)	4	3・4	英米文学科 除く		宣伝広告論	4	3・4	
	時事英語	4	3・4	英米文学科 除く		比較社会構造論	4	3・4	
					経営学史	4	3・4		
					国際経営論	4	3・4	休講	
					経営統計	4	3・4		
地理学科	地質学	4	3・4	地理学科 除く	経営学科	保険経営論	4	3・4	
	気候学	4	3・4	地理学科 除く		財務会計論	4	3・4	
	人口地理学	4	3・4	地理学科 除く		経営分析論	4	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4	地理学科 除く		税務会計論	4	3・4	
	都市地理学	4	3・4	地理学科 除く		国際経済論	4	3・4	休講
歴史学科	文化地理学	4	3・4	地理学科 除く	短大国文科	商業史	4	3・4	
	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	歴史学科 除く		国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	国文学科 除く
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4	歴史学科 除く		国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4	国文学科 除く
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4	歴史学科 除く		国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4	国文学科 除く
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4	歴史学科 除く		国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4	国文学科 除く
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	歴史学科(隔年開講) 除く		国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4	国文学科 除く
	歴史哲学	4	3・4	歴史学科 除く		国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4	国文学科 除く
	哲学史	4	3・4	歴史学科 除く					
日本民俗学	4	3・4	歴史・国文学科 除く						
社会学科	マスコミュニケーション	4	3・4	社会学科 除く	短英文科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	国文学科 除く
	産業社会学	4	3・4	社会学科 除く	短放射線大科	時事英語	4	3・4	国文・英米文学科 除く
	都市社会学	4	3・4	社会学科 除く		計算機言語概論	2	3・4	国文学科 除く
	社会福祉発達史	4	3・4	社会学科 除く		臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	国文学科 除く
				応用計測学		2	3・4	国文学科 除く	

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

## 7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
宗教学特講Ⅰ	4		美術史概説	4	※ロ	ドイツ語FLL(初級)	2	
宗教学特講Ⅱ	4		東洋思想研究	4	※ハ	ドイツ語FLL(中級)	2	
宗教学特講Ⅲ	4		日本仏教史	4	※イ	フランス語FLL(初級)	2	
哲学特講Ⅰ	4		日本文化史Ⅰ	4	※ニ 隔年 休講 開講	フランス語FLL(中級)	2	
哲学特講Ⅱ	4		日本文化史Ⅱ	4		中国語FLL(初級)	2	
哲学特講Ⅲ	4		英会話Ⅱ	2		中国語FLL(中級)	2	
宗教人類学	4		ドイツ語F	2		スペイン語FLL(初級)	2	
民間信仰論	4		フランス語F	2		スペイン語FLL(中級)	2	
日本宗教文化史	4		中国語F	2		ロシア語FLL(初級)	2	
民衆宗教成立史	4		スペイン語F	2		ロシア語FLL(中級)	2	
歴史哲学	4	※イ	ロシア語F	2		英語(海外演習)	2	※ホ
日本民俗学	4	※ロ	英語LLⅡ	2				

※イ、歴史学科を除く。

※ロ、国文・歴史学科を除く

※ハ、国文学科を除く。

※ニ、国文・英米文・歴史学科を除く。

※ホ、「英語(海外演習)」は、ハワイ大学およびカリフォルニア大学で行われる短期留学サマーセミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.73)を参照のこと。

## 8. 再履修科目の履修方法

イ、再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を翌年度に再度履修することをいう。この場合、授業科目名が同じであれば担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ、翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして履修しなければならない。(休学の場合も同様)

ハ、再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ、外国語(英米文学科の3Aは除く)・体育実技Ⅰ(昭和59年度以前入学生は体育実技)・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。

ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ、1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法(昭和63年度以降入学生適用)

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○昭和62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生、または昭和63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

(注)詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部    学科    系列    分野    一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.55参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修)・2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	2
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実            技		1
講            義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1・2・3
選 択 科 目		5・6・7・8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3・4・5・6・7・8

## Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

### 1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	1 4 科目以内	1 7 科目以内
3 年 次	1 4 科目以内	1 7 科目以内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ，随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

#### Ⅱ) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口に相談すること。）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.40参照）は，履修登録できる。

また，課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

## 2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日				
	授業科目	科目コード	担 当	担当コード
一 時 限	ドイツ語 1 G	212201	百 濟	879
	~~~~~			
二 時 限	保健体育理論(前期)	214201	長 濱	A10
	保健体育理論(後期)			622
~~~~~				
三 時 限	宗 教 学 I	210101	平井(俊)	735
~~~~~				
四 時 限	論 理 学	210203	國 嶋	306
	~~~~~			
五 時 限	自然科学概論	210401	宇和川	104
~~~~~				

正しい記入例

曜日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コード	担 当	担 当 コード
(1)	1		ドイツ語 1 G	2 1 2 2 0 1	百 濟	8 7 9
	2		保健体育理論(前期)	2 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	2 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	2 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	2 1 0 4 0 1	宇和川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

- (1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合
- (2) 時限を誤って記入した場合
- (3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0と6, 1と7)
- (4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

#### 国文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	4
1年次履修制限科目数			15

#### 英米文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			15

## 地理学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

## 歴史学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

## 社会学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉原論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野	5
		社会分野	
		自然分野	
開講科目の中から5科目を選択必修 (不足単位は2年次で履修)			
1年次履修制限科目数			15

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月21日（金）～22日（土）に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日（火）～2月5日（月）に実施される。
  - ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
  - ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。  
なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。  
（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I) 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。（締切日は掲示板参照）
- ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II) 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。  
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

#### 4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
  - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。  
 なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

#### 6. 試験時間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追・再試験実施時間（前期）	追・再試験実施時間（後期）
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30	1時限 16:10～17:00	1時限 9:30～10:20
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50	2時限 17:10～18:00	2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10		3時限 13:00～13:50
			4時限 14:10～15:00
			5時限 15:20～16:10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.59）ので参照のこと。

## VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。  
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

## Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

## Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1級・高等学校2級の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	〃	社会教育の場として博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。（社会福祉士の基礎科目も修得可能）
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

## IX 事務取扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限
時 間	9 : 00～10 : 30	10 : 40～12 : 10	12 : 50～14 : 20	14 : 30～16 : 00	16 : 10～17 : 40

### 3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

## X 学籍について

### 1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

### 2. 休学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

#### I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
  - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
  - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類
  - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

#### II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

#### III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

#### IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

### 3. 復学

- イ. 休学した者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

#### 4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

- イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。
- ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。
- ハ. 退学年月日は次のとおりとする。
  - (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
  - (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

#### 5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

- イ. 在学年数を超えた者
- ロ. 休学期間を超えた者
- ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

#### 6. 懲 戒

- イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。
- ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。
  - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
  - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
  - (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
  - (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

#### 7. 編 入 学(学士入学)

本大学卒業生(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次または2年次に編入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

- イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。
- ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既にそれぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

#### 8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

- イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。
- ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)
- ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

#### 9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

## 10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ、履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ、留学期間は在学年数に算入する。

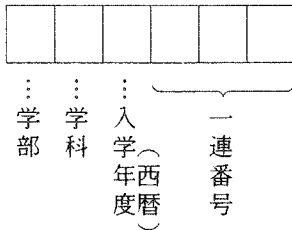
## 11. 学生氏名・保証人

- イ、届け出の学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ、外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ、通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ、保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ、保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ、学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

## 12. 学生番号

- イ、学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ、学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

### 学生番号区分



(例) 1989年度入学・文学部  
国文学科12番の場合



### 学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禪 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

## XI 既修得単位の認定について

### イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

### ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

### ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

## XII 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類	要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口	
届      書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること。</li> </ul>	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること。（締切日は掲示参照）</li> </ul>	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・掲示板にて指示。</li> </ul>	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・戸籍抄本添付。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県名）変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・住民票記載事項証明書添付。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・在学誓書（保証書）添付。</li> </ul>	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	
死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・死亡が証明できる書類（写し可）添付。</li> </ul>	/	要		
願   書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・傷病による場合は、医師の診断書添付。</li> <li>・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類。</li> <li>・その他の場合は、保証人連署の理由書。</li> </ul>	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付。</li> <li>・4月10日までに提出すること。</li> </ul>	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所定用紙あり。</li> <li>・学生証添付。</li> </ul>	要	要	

### XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円  { 英文証明書 } 1通 300円
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一般教養科目修了(見込)証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

## 試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
- (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
- (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
- (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間考査として行う試験をいう。

2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。

3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。

- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
- (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をとまなう授業科目の追試験及び再試験
- (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

## 講義内容目次

一般教育科目(共通) .....	(64)
保健体育科目(共通) .....	(69)
随意科目(共通) .....	(70)
国文学科 .....	(75)
英米文学科 .....	(83)
地理学科 .....	(94)
歴史学科 .....	(104)
社会学科 .....	(119)
他学部履修科目(共通) .....	(133)

[巻末]

教職および資格講座



## 一般教育科目(共通)

人文分野	
宗教学Ⅰ(佐々木 宏幹) .....	64
宗教学Ⅰ(洗 建) .....	64
宗教学Ⅰ(山岡 隆晃) .....	64
宗教学Ⅰ(脇本 平也) .....	64
宗教学Ⅰ(再クラス)(岡部 和雄) .....	64
宗教学Ⅰ(再クラス)(奈良 康明) .....	64
宗教学Ⅱ(青龍 宗二) .....	64
宗教学Ⅱ(峰岸 孝哉) .....	65
宗教学Ⅱ(河村 孝道) .....	65
宗教学Ⅱ(原田 弘道) .....	65
宗教学Ⅱ(石井 修道) .....	65
哲学(久保 陽一・中村 友太郎) .....	65
論理学(円谷 裕二・丸山 豊樹) .....	65
歴史学(大久保 俊昭) .....	65
文学(田中 徳定) .....	65
芸術学(日本美術)(林 良一) .....	66
芸術学(西洋美術)(宮崎 克己) .....	66
社会分野	
法学憲法(和知 恵一) .....	66
法学憲法(鷓徳 啓登) .....	66
経済学(荒木 勝啓) .....	66
政治学(小林 正敏) .....	66
社会学(橋爪 敏) .....	66
文化人類学(加藤 正春) .....	67
地理学(中俣 均) .....	67
地理学(矢野 陽子) .....	67
自然分野	
自然科学概論(宇和川 正人) .....	67
自然科学概論(篠原 正雄) .....	67
数学(三好 重明) .....	67
生物学(清水 善和) .....	67
生物学(本間 暁) .....	68
心理学(横山 剛) .....	68
心理学(牧野 晋) .....	68
人類学(斎藤 成也) .....	68
地理学(中島 義一) .....	68
化学(高木 正博) .....	68
物理学(篠原 正雄) .....	68

## 保健体育科目(共通)

保健体育理論(三幣 晴三) .....	69
保健体育理論(森本 葵) .....	69
保健体育理論(再クラス)(長濱 友雄) .....	69
保健体育理論(再クラス)(森本 葵) .....	69

## 随意科目(共通)

宗教学特講Ⅰ(松田 文雄) .....	70
宗教学特講Ⅱ(脇本 平也) .....	70
宗教学特講Ⅲ(洗 建) .....	70
哲学特講Ⅰ(東洋)(篠原 壽雄) .....	70
哲学特講Ⅱ(西洋)(國嶋 一則) .....	70
哲学特講Ⅲ(西洋)(久保 陽一) .....	70
宗教学人類学(佐々木 宏幹) .....	70
民間信仰論(谷口 貢) .....	71
日本宗教文化史(脇本 平也) .....	71
民衆宗教成立史(洗 建) .....	71
歴史哲学(麻生 建) .....	71
美術史概説(林 良一) .....	71
東洋思想研究(館野 正美) .....	71
日本文化史Ⅰ(廣瀬 良弘) .....	71
日本仏教史(廣瀬 良弘) .....	71
日本民俗学(渡邊 欣雄) .....	71
英会話Ⅱ(J. K. ウエルズ・J. G. キャリソン・ T. J. コーガン・R. B. シェリー・J. W. グリフィス・ M. ピアス) .....	72
英語LⅡ(T. J. コーガン・大庭 直樹) .....	72
ドイツ語F(吾妻 雄次郎) .....	72
ドイツ語F L L(初級)(松本 洋子) .....	72
ドイツ語F L L(中級)(野島 利彰) .....	72
フランス語F(加藤 節子) .....	72
フランス語F L L(初級)(加藤 節子) .....	72
フランス語F L L(初級)(M. マルタン) .....	72
フランス語F L L(中級)(M. マルタン) .....	72
中国語F(釜屋 修) .....	73
中国語F L L(初級)(釜屋 修) .....	73
中国語F L L(中級)(羅 濂明) .....	73
スペイン語F(佐藤 玖美子) .....	73
スペイン語F L L(初級)(M. アルマラス) .....	73
スペイン語F L L(中級)(M. アルマラス) .....	73
ロシア語F(杉山 秀子) .....	73
ロシア語F L L(初級)(野村 タチアナ) .....	73
ロシア語F L L(中級)(野村 タチアナ) .....	73
英語(海外演習) .....	73

# 一般教育科目(共通)

## 人文分野

### 宗教学 I

佐々木 宏 幹

講義はつぎのように展開される。(1)宗教は諸文化のなかでどのような位置を占め、また社会的にどのような役割を果たしているか、(2)宗教をめぐってどのような学説が唱えられたか、(3)世界にはどのような宗教形態があるか、(4)仏教はどのような特色をもつ宗教か、(5)日本の宗教と日本人との関係はどうなっているか。具体的な事例を挙げて考察する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

¥2,000

### 宗教学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

¥2,000

### 宗教学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象であるとの認識に立ち、宗教の社会的な意味や構造・機能について概観する。さらに、宗教文化の基層をなしているシャーマニズムなどの諸信仰や外来宗教としての仏教、及び両者の関係など、わが国における宗教現象の個別的問題についても考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕『シャーマニズム』(中公新書)

『日本宗教』(大明堂)

### 宗教学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕脇本平也『宗教を語る』(日新出版)

### 宗教学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

『仏教の歩んだ道 I』(東京書籍)

### 宗教学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

『仏教のおしえ』(東京書籍)

### 宗教学 II

青 龍 宗 二

この講座は「宗教学 I」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関り合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

## 宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学IIは、宗教学Iを学んだ後を受けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日的意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違についての理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関り合いと、そこからの種々の問題について考察する（なお、座禅も行う）。

〔参考書〕『宗教学II』（更生社）

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 宗 教 学 II

原 田 弘 道

仏教就中禅を中心に講義を進めてゆく。まず禅及び禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、人間生活と禅の真理、禅的生活の展開、禅と文化、禅と現代といった問題を順次とりあげてゆく。

そして禅の日常性の構造、公案の意義、禅の人間像、実践規範と順次とりあげる。禅と文化、禅と現代においては、広く禅と芸術、西欧思想と禅との関係等についても触れるつもりである。

〔参考書〕水野・柴田編『宗教学ハンドブック』

（世界書院）

## 宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学IIとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Iの後を受けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ課目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅という自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざ

しているかを考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

〒1,950

## 哲 学

久 保 陽 一・中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

## 論 理 学

円 谷 裕 二・丸 山 豊 樹

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

## 歴 史 学

大 久 保 俊 昭

歴史学とは何か、というテーマを考えるために近年ひとつの潮流となり、また隣接諸学問との関係も深い社会史を中心に検討してみたい。参考書等未定。

## 文 学

田 中 徳 定

文学は歴史的に表面に現れる部分だけでなく、むしろその裏側にひそむ「人間」を描くことによって、その時代というものを逆に照射していると考えられることができる。

そこで、歴史との関わりの中において、文学は何を描き出しているのかを、日本の文学を中心に考えていきたい。

## 芸術学 (日本美術)

林 良 一

日本美術の古代より近世までの様式的展開ならびに全般を通しての「日本の美」について講述する。なお、現地撮影の遺構および作品のカラーズライドにより、理解を深めるよう努める方針である。

## 芸術学 (西洋美術)

宮 崎 克 己

ヨーロッパのルネサンスから現代までの絵画を考える。各地域、各時代の代表的名作を選んで、掘り下げて論ずる。西洋の美術作品の基本的な見方を修得する事を目標とする。

受講者には、適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポート提出を要求する。

# 社 会 分 野

## 法 学 憲 法

和 知 恵 一

我々の日常生活は法と密接に関わり合っている。例えば、本屋さんで週刊誌を買う行為は、「売買契約」という民法 555条以下の規定で律される。映画を見る・電車に乗るといった行為も同様に、すべて法的な側面を持っている。

天ぷらを揚げていて火事を出してしまうということがあるが (S. 59年の東京都では6964件の火事のうち 529件が天ぷらの油による火災)、この火事を出したことで、どんな刑罰が科されるのか、また隣家を焼失させてしまった損害の賠償はどうすべきか？

こういった具体的事例を多数挙げて講義を進める。

〔教科書〕小林・高橋・花井・和知著『事例法学入門』

(東京教学社)

『ポケット六法』(有斐閣)

〔参考書〕小林弘人他著『憲法27講』(創成社)

橋本辰夫編著『ケースメソッド現代法学入門』

(圭文社)

## 法 学 憲 法

鶏 徳 啓 登

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学である。法に共通する根本的な理念は何か、法の目的は何かなど、法を研究する場合にどうしても解明しなければならない問題がある。

また憲法は、国家の基本法として他の諸々の法令の根幹をなすものであり、人権と統治機構よりなる。そして現代にいたっては、社会状況の変化に伴い新しい人権といわれるものの研究もなされている。

そこで、本講義では、これらのテーマを中心にまず一通り法学をやり、つぎに法の中でもその中枢をなす憲法の理念や原則などについて説明してゆきたいと思う。

〔教科書〕『憲法27講』(創成社) ¥2,500

〔参考書〕『事例法学入門』(東京教学社) ¥1,700

『ケースメソッド現代法学入門』(圭文社) ¥1,800

## 経 済 学

荒 木 勝 啓

ニュース・新聞等に登場する経済諸問題を理論的に説明できる程度まで、マクロ経済学の理論を解説する。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』

(成蹊堂) ¥3,300

## 政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会学科の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な視点をも重視したい。

〔教科書〕高橋正則他著『現代日本の政治構造』

(声書房)

## 社 会 学

橋 爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会学諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものである。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集団的現象

に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』（新版）（学文社）

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』（学文社）

## 文化人類学

加藤正春

文化人類学の基礎的概念、方法、理論等を講義する。各地の民族の具体的な生活事実をできるだけ紹介しながら、人類文化の多様性と、この学問の基本的視点の理解に努める。日本の伝統的社会・文化の紹介もおこなう。

## 地理学

中俣均

高校時代の「地理」という教科のイメージを一新し、世の中の現象を「地理学的な」眼でながめるよう努める。それにより、社会や文化に対して新鮮な視野を開くことを目標としたい。テキスト等については、開講時に教室で指示する。

## 地理学

矢野陽子

地球上最大の大陸と最大の大洋の間に位置する日本列島は、複雑な自然に富み、地震・火山噴火・集中豪雨・台風等多くの天災に見舞われながらも、今日の発展を日本国民にもたらしています。

本講では、この発展の母体である日本列島の自然と人間生活について地誌的立場から、日本全域を対象として地域の本質（地域特性）を明らかにしたいと思います。

〔教科書〕『日本地誌』（改訂増補版）¥1,900

地図帳使用。

# 自然分野

## 自然科学概論

宇和川正人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

## 自然科学概論

篠原正雄

「人間はいかにして宇宙の中に生まれたか」

20世紀前半の自然科学は、原子が素粒子から成ることや、我々の銀河系の外にも無数の銀河のあることを発見した。今日では、素粒子を構成するクォーク粒子の性質が研究され、我々の宇宙の外の無数の宇宙につき議論されている。また、分子生物学や太陽系探査の成果を加えて、地球史・生物史の認識も深まった。

この講義では、「宇宙人はいるか？」という問いを携えながら、「素粒子の中から宇宙の外まで」、「宇宙の誕生から人類の出現まで」、現代の自然科学が招く自然像を、研究史を交えながら展開する。

〔教科書〕八杉龍一『図解 科学の歴史』（東京教学社）  
¥1,700

## 数 学

三好重明

数学的考え方の基本的な一側面を理解することを目標とする。そのために、主に幾何学（特にトポロジー）から題材をとって、現代的視点から、問題解決へ向けて数学理論が如何にして構築されていくかを示してみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

## 生 物 学

清水善和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起原から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦糸に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横糸に配して統一し、大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれて遺伝子組換え、脳死、代理出産などの現代的な問題についても言及する。

〔教科書・参考書〕なし

## 生物学

本間 暁

進化、遺伝、生態・自然保護を3つの柱として、生物学の基本的知識を中心に、人間生活と関連した問題や最近話題になっている問題（遺伝子工学、ガン・免疫、環境問題etc）をまじえ、わかりやすく解説する予定である。

〔参考書〕小野幹雄ら著『BIOSCIENCEバイオサイエンス 生命の科学』（改訂版）（芦書房）¥2,200

## 心理学

横山 剛

本講義は心理学の主要な領域と心理学の対象・方法について基礎的な知見を与える入門の講義である。内容としては、感覚や知覚、学習、記憶などの基礎的分野から情緒、知能、性格、異常などの応用・臨床的な分野などを解説する。いずれにせよ、学生諸子が己れの理解を深め、複雑な現代の社会現象を見ていく上の一助となれば幸いである。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）  
¥1,400

〔参考書〕村山貞雄監修、霜山徳爾編『臨床心理学』（学術図書出版）

## 心理学

牧野 晋

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説すると共に、今日、社会において心理学が担っている問題について考えてゆきたい。また、日常生活において見られる人間の様々な行動を従来の研究成果をもとに解説し、心理学的なもの見方、考え方がどのようなものであるかを考えてゆきたい。講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕開講時に指示する。

## 人類学

斎藤 成也

「人類の進化」を柱として、自然人類学を講義する。内容は、(1)生物の進化と進化論、(2)霊長類の博物誌、(3)遺伝子からみたヒトと類人猿の系統関係、(4)化石人類の系譜、(5)先史学と年代学、(6)人類集団の遺伝的近縁関係、(7)採集狩猟民の生態、(8)日本人の起源、等を予定している。

## 地学

中島 義一

地学のはんいは広いが、陸水学・気候学・地形学の主要問題を講義する。地図帳（高校生の時に使用したものでよい）を忘れずに持ってくること。

## 化学

高木 正博

まず、物質の本性について、原子の結びつきから解説する。つぎに、地球化学および環境汚染の視点から、化学物質と自然環境の関係や、人間とのかかわりあいについてのべる。

## 物理学

篠原 正雄

「エネルギーはいくら使っても少しも減らない」（?? エネルギー保存法則）ならば、なぜ「エネルギー問題」などがあるのだろうか？本講では、物理学の基本概念である「エネルギー」を軸に、物理の諸分野を概観する。はじめに、エネルギー概念の出発点となった力学の分野を、力学的な「力」と「エネルギー」を中心に解説する。次に、「エネルギー」の流れを追って、熱、光、電磁気、原子等の分野を探る。最後に、宇宙物理学の成果にも触れたい。

〔教科書〕藤城敏幸『生活の中の物理』（東京教学社）  
¥1,600

# 保健体育科目（共通）

## 保健体育理論

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識，特に生涯体育，スポーツの文化的視点からの考察，人間の運動に関する実際の考察を中心とし，さらに現在および将来にむけての健康的内容を取りあつかう。

## 保健体育理論

森 本 葵

### 体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

### オリムピックゲーム

- 〈歴 史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

## 保健体育理論（再クラス）

長 濱 友 雄

科学技術の発達と共に人間はだんだんと身体を動かすことが少なくなっている。医学の進歩とともに寿命も大巾にのびて高齢化社会をむかえている現在，我々はそれにどのように対応し，健康で有意義な生活を送るために体力を高めなければならないと考えるが，そのための方策について講義を進める。

## 保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

### 体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

### オリムピックゲーム

- 〈歴 史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

# 随 意 科 目 ( 共 通 )

## 宗教学特講 I

松 田 文 雄

— 宗教思想および用語の概説 — , 特に教職単位であることを考慮し, 宗教思想の潮流, および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 随時指示する。

## 宗教学特講 II

脇 本 平 也

— 宗教学説史 — 経験科学としての宗教学の成立と展開を, 問題中心に学説史的にあとづけてみる。昨年度の続講となる。

参考文献をその都度指示する。

## 宗教学特講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題, とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範, 更に底流をなす宗教文化との関係について考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

## 哲学特講 I ( 東 洋 )

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする, 儒教・仏教, そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命, 非儒などの精神が韓非子にいかにも受容されたかなどを中心に, 先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び, 併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 『荘子』〔内篇冊〕 (中公文庫)

## 哲学特講 II ( 西 洋 )

國 嶋 一 則

人間は, 何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常, われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは, 自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって, 現代世界の有力な主義を明確にし, 自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

## 哲学特講 III ( 西 洋 )

久 保 陽 一

デカルト以来の主観-客観図式や人間中心主義とりわけ意識内在主義の限界を説くことが「現代哲学」の合言葉となっているかのように見える。しかし意識を言語や実存や行為や無意識等で置き換えるだけで, 人間の自己認識の問題が解消するわけではない。この問題については, カントからヘーゲルにいたるドイツ古典哲学から尚学すべきものが多い。前期ではカントの道徳哲学について, 後期ではヘーゲルの「人倫」の思想や宗教哲学について取り上げることにしたい。

〔参考書〕 カント『道徳形而上学原論』 (岩波文庫)

ヘーゲル『初期神学論集』〔I・II〕 (以文社)

ヤメ・ペゲラー編『ヘーゲル・ヘルダーリンとその仲間』 (公論社)

## 宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム, アニマティズム, シャーマニズム, 妖術, 邪術, 死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに, これら諸形態が, 日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔参考書〕 佐々木宏幹『シャーマニズム』 (中央公論社)

¥520

## 民間信仰論

谷 口 貢

民俗社会に展開する民間信仰の構造と機能について、各地の具体的な神祭りをはじめ年中行事・通過儀礼などの事例を紹介しながら考察を加える。また日本人の他界観や祖先観の問題についても言及していきたい。  
〔教科書〕桜井徳太郎『祭りと信仰』（講談社学術文庫）  
¥840

## 日本宗教文化史

脇 本 平 也

教科書、およびその他の関連の文献を読む。出欠をとり、文献読解の分担を課する。  
〔教科書〕蘭田 稔編『神道－日本民族宗教－』（弘文堂）

## 民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。  
〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）  
¥2,000

## 歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。  
〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

## 美術史概説

林 良 一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

## 東洋思想研究

館 野 正 美

中国哲学の源流をなすと考えられる、中国古代の、いわゆる「諸子百家」の各学説を講義する。

諸子百家の中でも、特に、孔子・孟子・荀子らに代表される「儒家」、墨子の「墨家」、そして老子や荘子らの織りなす「道家」、以上三学派を中心に講じてゆきたい。

かくして、中国哲学の一典型を明らかにしたいと考えている。

〔参考書〕授業中に紹介します。

## 日本文化史 I

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、中世から近世にかけての文化について詳述する。その際には絵巻物等の分析をも試みたいと思う。

〔参考書〕参考史料は随時コピーして配布。

## 日本仏教史

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と当該期の社会・文化とのかかわりについて講述する。

〔参考書〕参考史料は随時コピーして配布。

## 日本民俗学

渡 邊 欣 雄

本年度は日本各地に現在でもみられる饗宴の民俗に焦点をあてて、日本のみならず世界各地で行なわれている類種の風俗習慣について解説する。日本民俗学者は饗宴の語義からさまざまな起源論を展開してきた。宴（うたげ）とは柳田国男が唱えたように事の真相を打ち明けるウチアケだったのか、折田信夫が唱えたように客人を迎えるための拍手礼式たる拍ち上げ（ウチアケ）だったのか。はたまた大間知篤三の言うように事の終りを意味する打ち揚げ（ウチアゲ）だったのか。饗宴の語義論から象徴論まで拡大していくと、世界の至るところに客人を招いての共食儀礼が豊富にみられ、日本民俗との共歓の世界を垣間見ることができる。

〔教科書〕伊藤幹治・渡邊欣雄『宴（うたげ）』

（弘文堂）¥1,500

## 英 会 話 II

J. K. ウエルズ・J. G. ギャリソン  
T. J. コーガン・R. B. シェリー  
J. W. グリフィス・M. ピアス

全学で6クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

## 英語 L L II

T. J. コーガン・大庭直樹

英語 L L I のアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語 L L I を履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

(大庭)前半は英語を耳で聞いて理解する力を集中的に訓練し、後半は TOEFL, TOEIC 等の問題に挑戦する。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

## ドイツ語 F

吾妻雄次郎

主として2年次までドイツ語を履修した学生を対象に、ナチ支配下の短篇小説や天皇問題及びリクルート問題に対する西ドイツ紙誌の反応を読みとることに依り、ドイツの思考の一端に触れたい。同時に文法の包括的習得に努める。

## ドイツ語 F L L (初級)

松本洋子

ビデオ教材を用いて、まず、生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

## ドイツ語 F L L (中級)

野島利彰

週一回という限られた時間内で、L L を通して語学を学ぶ方法としては基本的には多数の文章の記憶以外にはない。耳から音を聴き、記憶し、そしてそれを口から出す。こうした機械的な——時には無味乾燥な——練習の場としてこの授業を活用して行きたい。

なお受講者には前年度に F L L (初級) をとった者を望む。

〔教科書・参考書〕教場で指示する。

## フランス語 F

加藤節子

やさしいテキストを使ってフランス文学史を読む。17世紀から始めて19世紀頃までの文学とその社会背景を概観していく予定である。時間があれば大作家や詩人たちの作品の抜粋を読んで作品鑑賞も併せてやってゆきたい。

〔教科書〕プリント

## フランス語 F L L (初級)

加藤節子

ビデオ教材やカセット・テープを利用して聞きとり練習や、基本文型の練習をくり返し行って日常会話に慣れるようにします。一年間続けてゆく意欲のあるものの受講を希望します。テキストは教場で指示します。

## フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕『Avec Plaisir』Emission 1より。

## フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『Entrée Libre 1』

## 中国語 F

釜屋 修

すでに習得した中国語能力をいかしてより高く、より正確な中国語への理解力を高めるための場である。短篇小説、評論文などを用いて文章解析力、朗読能力の向上に焦点をあてるとともに、簡単な日常会話力も身につけられるようにしたい。欠席しない人を求む。

〔教科書〕開講後に受講生諸君の希望も聞き選定する。  
〔参考書〕その都度指示する。

## 中国語 F L L (初級)

釜屋 修

中国語を一年間履修したもの、あるいはそれと同等の学力を有するものを対象とし、日常初級会話をビデオ教材中心に学習する。

〔教科書〕プリント配布。  
〔参考書〕開講後指示する。

## 中国語 F L L (中級)

羅 濛 明

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

## スペイン語 F

佐藤 玖美子

今世紀スペインの有名な歴史家であり社会学者であるアメリカ・カストロの著書“イベロアメリカ”の講読を行う。学生諸君が1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、中南米諸国がたどってきた苦難、屈折の歴史を知り、中南米の現状に対する理解を深め、また検討を加えることを試みたい。

〔教科書〕プリント

## スペイン語 F L L (初級)

M. アルマラス

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

## スペイン語 F L L (中級)

M. アルマラス

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

## ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——文学新聞の抜すい、諷刺漫画(クロコディル)、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげていきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

## ロシア語 F L L (初級)

野村 タチアナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕教場にて指示。

## ロシア語 F L L (中級)

野村 タチアナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕教場にて指示。

## 英語 (海外演習)

この授業科目は、ハワイ大学・カリフォルニア大学における短期留学サマーセミナーでの4週間・60時間に及ぶ現地演習を中心として行われる、英語随意科目である。

受講対象学生は、1年次生から卒業年次生までとし、6月上旬から7月上旬にかけての事前指導・事前講習、7月中旬から8月中旬にかけての現地演習、9月下旬のテストを通じて単位(2単位)が認定される。

受講希望者は、5月上旬に実施される説明会に参加し5月中旬に所定の手続きに従って申込みたい。受講の可否は、5月下旬に決定される。

# 国文学科

## 基礎教育科目

基礎国文学 (高田 知波)	75
基礎国文学 (田中 徳定)	75
基礎国語学 (若杉 哲男)	75
基礎中国文学 (中村 璋八)	75

## 専門教育科目

国文学概論 (水原 一)	75
国語学概論 (木村 晟)	75
国文学講読 I (村上 光徳)	75
国文学講読 II (田中 徳定)	76
国文学講読 III (林 達也)	76
中国文学講読 (篠原 壽雄)	76
国語学研究 (木村 晟)	76
国語学研究 (田中 章夫)	76
国文学史 (上代) (遠藤 宏)	76
国文学史 (中古) (高橋 文二)	76
国文学史 (中世) (村上 光徳)	76
国文学史 (近世) (林 達也)	76
国文学史 (近代) (畑 實)	77
国語学演習 I (木村 晟)	77
国文学演習 I (上代) (小野 寛)	77
国文学演習 I (中古) (高橋 文二)	77
国文学演習 I (中古) (田中 徳定)	77
国文学演習 I (中世) (水原 一)	77
国文学演習 I (中世) (村上 光徳)	77
国文学演習 I (近世) (林 達也)	77
国文学演習 I (近代) (片岡 懋)	77
国文学演習 I (近代) (高田 知波)	77
国文学演習 I (近代) (畑 實)	78
国語学演習 II (木村 晟)	78
国文学演習 II (上代) (小野 寛)	78
国文学演習 II (中古) (高橋 文二)	78
国文学演習 II (中古) (田中 徳定)	78
国文学演習 II (中世) (水原 一)	78
国文学演習 II (中世) (村上 光徳)	78
国文学演習 II (近世) (林 達也)	78
国文学演習 II (近世) (富士 昭雄)	78
国文学演習 II (近代) (片岡 懋)	78
国文学演習 II (近代) (高田 知波)	79
国文学演習 II (近代) (畑 實)	79
国文学研究 (片岡 懋)	79
国文学研究 (畑 實)	79
国文学研究 (村上 光徳)	79
国語史 (田中 章夫)	79

言語学概論 (飯島 周)	79
上代文学講読 (小野 寛)	79
近代文学講読 (高田 知波)	79
上代文学 (小野 寛)	80
中古文学 (廣島 まさる)	80
中世文学 (水原 一)	80
近世文学 (渡辺 守邦)	80
近代文学 (片岡 懋)	80
近代文学 (畑 實)	80
国文学特講 I (近藤 瑞男)	80
国文学特講 I (渡辺 守邦)	80
国文学特講 II (岩佐 美代子)	81
国文学特講 III (小林 正明)	81
国文学特講 IV (牧野 和夫)	81
中国文学 (中村 璋八)	81
中国文学演習 (中村 璋八)	81
中国文学概論 (篠原 壽雄)	81
仏教概論 (山内 舜雄)	81
東洋思想研究 (館野 正美)	81
日本史概説 I (古代・中世) (渡辺 直彦)	82
日本史概説 II (近世・近代) (木槻 哲夫)	82
日本文化史 I (廣瀬 良弘)	82
書道史 (谷村 義雄)	82
書道実習 I (金子 卓義)	82
書道実習 II (金子 卓義)	82
美術史概説 (林 良一)	82
美術史 (谷村 義雄)	82
現代美術 (宮崎 克己)	83
編集実務 (宇賀田 達雄)	83
英米文化 (金関 寿夫)	83
日本民俗学 (渡邊 欣雄)	83

# 国 文 学 科

## 基礎教育科目

### 基礎国文学

高 田 知 波

日本の近代小説を〈学問〉として読む、ということの基礎的な学習が目的である。素材としては『坊っちゃん』『こころ』『舞姫』をとりあげる予定。

〔教科書〕夏目漱石『坊っちゃん』、『こころ』  
森鷗外『阿部一族・舞姫』  
(いずれも新潮文庫版)

### 基礎国文学

田 中 徳 定

古典文学の代表的作品を読みながら、作品と時代との関わりを考え、何故その作品が生み出されてきたか、また、文学史の中においてどのような意味をもっているかを考えていく予定。

〔教科書〕『資料日本文学史 上代・中古篇』(桜楓社)  
¥1,600

### 基礎国語学

若 杉 哲 男

直接は、文語を中心とする国文法への考察を目的とするが、それだけにとどまらず、広く言葉に関する諸問題を取上げて、国語への関心と知識を深めようとする。

〔教科書〕和田利政・森 昇一・岡崎正継著  
『国文法要説 文語篇』(桜楓社) ¥1,400

### 基礎中国文学

中 村 璋 八

中国の先秦時代より唐・宋時代に至る散文・韻文、それに諸子百家を始めとする思想的な作品を歴史的な背景を考えながら解説し、それによって中国古典の読解力を養い、また、漢字の構成、中国の風土や習慣なども説明し、それらの中国の文化が如何に日本に伝来し、日本の

文化一般に影響を及ぼしたかも述べて行く。この講義によって中国古典・日本の漢詩文が抵抗なく読めるようにしたい。

〔教科書〕『中国思想文学通史』(明治書院) ¥1,500

## 専門教育科目

### 国文学概論

水 原 一

国文学の領域、種類、思想的・芸術的理念について講じ、研究課題・研究法等について概観する。

〔教科書〕吉田精一編『日本文学概説』(有精堂)  
¥1,800

### 国語学概論

木 村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って一般言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。— こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論や文体論に重点を置く。

〔教科書〕福島邦道著『国語学要論』(笠間書院)  
¥1,000

〔参考書〕橋本進吉著『国語学概論』(岩波書店)  
時枝誠記著『国語学原論』(岩波書店)  
山田忠雄著『国語学概論』(日大通信教育部)

### 国文学講読 I

村 上 光 徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、

つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕『平家物語全注釈』（角川書店）

## 国文学講読Ⅱ

田 中 徳 定

『伊勢物語』を講読し、王朝文学の精神世界のありようについて考える。

〔教科書〕『伊勢物語』（明治書院）¥980

## 国文学講読Ⅲ

林 達 也

上田秋成の『雨月物語』を講読し、秋成文学の特質を考察する。本年は、『仏法僧』から読みはじめる。

〔教科書〕水野 稔『雨月物語』（明治書院）

## 中国文学講読

篠 原 壽 雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにとめたい。

〔教科書〕『詩文精粹』（明治書院）¥1,100

〔参考書〕その都度紹介したい。

## 国語学研究

木 村 晟

本年度は『和漢朗詠集私注』の国語学的研究を行なう。天文頃書写の六地藏寺本・古典刊行会本と室町期写本の内閣文庫本などと比較対校し、音韻・表記・語彙・語法等について国語学的考察をなす。『類聚名義抄』『色葉字類抄』『節用集』『日葡辞書』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕山内潤三他編『和漢朗詠集私注』（新典社）  
¥2,000

〔参考書〕授業中に説明する。

## 国語学研究

田 中 章 夫

現代日本語の背景としての江戸語の形成から、明治に至る近代日本語の成立過程を考察する。

〔教科書〕真田信治『標準語の成立事情』（PHP研究所刊）

## 国文学史（上代）

遠 藤 宏

文学の発生からの上代文学の流れを講述する。

〔教科書〕小野 寛・金井清一編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

## 国文学史（中古）

高 橋 文 二

平安時代の『土佐日記』をはじめとする日記文学の史的展開を辿り、王朝文学の特質の一端について考える。

〔教科書〕藤岡忠美編『王朝日記選』（和泉書院）  
¥1,300

## 国文学史（中世）

村 上 光 徳

軍記物語の流れを史実を追いながら、時代背景や特質・作者の問題等を講ずる。

## 国文学史（近世）

林 達 也

近世文学を、歴史状況との関連、表現論・文体論・作家論等にわたって検討する。本年は、俳諧の状況を中心にして、考えていくことにする。教材は、教場において、その都度配布する。

〔参考書〕原 道生・林 達也編『日本文芸史』（第四巻 近世）（河出書房）

## 国文学史(近代)

畑 實

近代文学の流れを講ずる。テキストは用いないが、必要に応じてプリントを配布する。

## 国文学演習 I (中世)

水原 一

『梁塵秘抄』を読み、中世の歌謡の表現・題材・時代背景・詩情などについて調査し、考え、発表して意見を交換し理解を深め、また研究調査の技術を学ばせる。  
〔教科書〕『和漢朗詠集・梁塵秘抄』  
〔日本古典文学大系〕(岩波書店)

## 国語学演習 I

木村 晟

室町期の国語資料である『かながき論語』を採り挙げ、室町時代の音韻・語彙・語法・仮名づかいの各方面から考察する。『名義抄』『日葡辞書』『下学集』『節用集』等の古辞書の類は常に参照する。  
〔教科書〕プリントを用意する。  
〔参考書〕授業中に紹介する。

## 国文学演習 I (中世)

村上 光徳

冷泉家の祖阿仏尼の書いた『十六夜日記』を徹底的に読む。合わせて阿仏尼について一伝記や夫為家、二条家との問題など多角的に考察する。

## 国文学演習 I (上代)

小野 寛

『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当し、本文の異同、諸注釈の検討、用語の調査研究など、徹底的により込んでゆく。今年度は巻二から歌を取り上げる。  
〔教科書〕鶴久・森山隆編『万葉集』(桜楓社)  
〔参考書〕小野寛校註『万葉集抄』(笠間書院)

## 国文学演習 I (近世)

林 達也

学生各自が、近世文学の作品の中から一つ選び、そのレポートを中心に授業をすすめる。レポートにあたっては、レジュメの用意を義務とする。

## 国文学演習 I (中古)

高橋 文二

『源氏物語』の「常夏」の巻を読み、王朝文学世界の特質を考える。古注釈の検討、本文の異同の確認、用語の通時的・共時的調査などを演習に臨む基礎的な作業とする。作業は、時間をかけた、厳密なものでありたいので、それなりの覚悟をもって臨んでいただきたい。  
〔教科書〕『胡蝶・螢・常夏』〔影印校注古典叢書〕(新典社)

## 国文学演習 I (近代)

片岡 懋

田山花袋、木下杢太郎、志賀直哉、山本有三、菊池寛、堀辰雄、井伏鱒二、岡本かの子の小説、戯曲の中から、それぞれにいくつかの作品を選び、演習を行う。作品については最初の時間に示すが、花袋の「重右衛門の最後」「少女病」、片岡の「蒲団」からはじめる予定。

## 国文学演習 I (中古)

田中 徳定

『大和物語』をとりあげ、諸本の比較、注釈書類の調査を行なうことにより、本文を深く読み込んでいくことを目的とする。  
〔教科書〕『大和物語』(明治書院) ¥1,400

## 国文学演習 I (近代)

高田 知波

〈戦後前期の小説〉を演習テーマにする。敗戦から昭和30年代末までの約20年間に書かれた代表作・問題作を読んでいく。  
〔教科書〕教場で指示する。

### 国文学演習Ⅰ（近代）

畑 實

大正期の小説

大正時代に出た主要な作品を取り上げて演習を行う。取り上げる作品演習方法等については最初の時間に指示する予定。

### 国文学演習Ⅱ（中世）

水 原 一

『古今著聞集』をテキストとして、中世の説話を多角的に考察し、その研究を相互に発表し批判し合う。併せて学術的調査の技術を身につけ、卒業論文作成の動力を養う。

〔教科書〕西尾・小林編『古今著聞集』（上・下）  
（新潮社）

### 国語学演習Ⅱ

木 村 晟

鎌倉時代成立の『光明真言土沙勤信記』を解説して、音韻・表記・語彙・語法の各方面から考察する。併せて卒論指導も行なう。『名義抄』『色葉字類抄』『日葡辞書』等の古辞書は常に参照する。

〔教科書〕プリントを用意する。

### 国文学演習Ⅱ（中世）

村 上 光 徳

『承久記』の研究。とくに慈光寺本を中心に他本との比較検討、時代背景人物の動き、作者の問題等をも合わせて考察する。

〔教科書〕村上編『承久記』、『慈光寺本全』（桜楓社）  
¥2,800

### 国文学演習Ⅱ（上代）

小 野 寛

記紀・風土記・万葉集など上代作品を徹底的によみ込んでゆく。とり上げる作品は、開講時に相談してきめる。並行して、各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、みんなで考え、揉み合いながら、それぞれの卒業論文への結実を図る。

### 国文学演習Ⅱ（近世）

林 達 也

近世文学の作品を読み、作品の読解方法を身につけることを目的とする。読む作品は、開講時に、学生と相談のうえ、きめる。

### 国文学演習Ⅱ（中古）

高 橋 文 二

『梁塵秘抄』を読み、王朝文学世界の背後にあるものについて考える。併せて卒論の指導をかねる。

〔教科書〕『梁塵秘抄』（岩波文庫）

### 国文学演習Ⅱ（近世）

富 士 昭 雄

影印本による西鶴など近世文学の演習。併せて卒業論文の指導をする。

〔教科書〕教場でプリントを配布する。

### 国文学演習Ⅱ（中古）

田 中 徳 定

源俊頼の『俊頼髓脳』を読みながら、院政期における歌学書の研究を行なう。特に歌学書に含まれる説話について、その流伝を探求していく予定。併せて卒業論文の指導も行なう。

〔教科書〕『歌論集』〈古典文学全集〉（小学館）

¥2,600

### 国文学演習Ⅱ（近代）

片 岡 懋

北村透谷、正岡子規、石川啄木、中野重治の評論と詩を中心に演習を行い、卒業論文についても話し合う。

とりあえず、岩波文庫の勝本清一郎校訂『北村透谷選集』を用意しておくこと。

## 国文学演習Ⅱ（近代）

高田知波

学生の卒業論文テーマと関連させながら日本の近代小説を対象にした演習を行う。

〔教科書〕教場で指示する。

## 国語史

田中章夫

文法史・音韻史を中心に、日本語の歴史を概観し、後期では、現代日本語の成立過程を考察する。

〔教科書〕松村 明編『国語史概説』（秀英出版）

## 国文学演習Ⅱ（近代）

畑 實

森鷗外の初期の作品について演習を行い、併せて卒業論文の指導を行う。

〔教科書〕『舞姫・うたかたの記』（岩波文庫）

## 言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、“ことばの仕組み”や“ことばのはたらき”について具体的な分析を試みる。日本語を主な対象とするが、初歩的な英文法の知識を持つことが望ましい。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕V. マテジウス『機能言語学』（桐原書店）

¥2,800

## 国文学研究

片岡 懋

横光利一の作品を中心に、大正期、昭和期の文学の傾向の一端を考察する。

## 上代文学講読

小野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土紀』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが節をつけ、所作をつけ、楽器を伴奏にうたったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

## 国文学研究

畑 實

「小説神髓」

坪内逍遙の「小説神髓」を読み、それを通して近代文学成立期の問題を考えてみたい。

〔教科書〕『小説神髓』（岩波文庫）

## 近代文学講読

高田知波

明治20年代の小説の中から二葉亭四迷の『浮雲』と樋口一葉の『たけくらべ』をとりあげ、作品の精読を通じて小説表現の可能性について考えてみる。

〔教科書〕二葉亭四迷『浮雲』、樋口一葉『にごりえ・たけくらべ』（いずれも岩波文庫版）

## 国文学研究

村上光徳

平安朝末期から中世にかけて宮廷生活のなれ者として許された一女性の書『無名草子』を読む。特に源氏物語批評を中心に源氏物語と合わせて研究する。続いて清少納言・紫式部等中古の女流作家批評へ移る。中世初期の物語論等見ることができ有意義。

〔教科書〕『昭和校注 無名草子』（武蔵野書院）

## 上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむに当って、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛校注『万葉集抄』（笠間書院）

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

## 中古文学

廣島 まさる

影印本の『和泉式部日記』を扱う。写本を読む力を養うと共に、中古語の理解を深めたい。なお『和泉式部集』にも触れて、作品の持つ文芸性を究明したい。

〔教科書〕鈴木知太郎解説『影印本 和泉式部日記』

（武蔵野書院）¥1,000

廣島まさる編『写本の読み方』（桜楓社）

¥680

## 中世文学

水原 一

『とはずがたり』（後深草院二条の日記）を読み、題材となった作者の生涯・運命・人間関係について考察し、日記文学としての特色について考えてみたい。

〔教科書〕富倉徳次郎『とはずがたり』（筑摩書房）

## 近世文学

渡辺 守邦

近世の小説を、『伊曾保物語』から始めて『梅暦』まで読む。数多くの作品に触れてみることに、近世小説史の流れをも追ってみたい。

## 近代文学

片岡 懋

国木田独歩、島崎藤村、夏目漱石の小説を中心に、明治30年代、40年代の文学の傾向について考察する。

## 近代文学

畑 實

白樺派の文学

白樺派を代表する志賀直哉、武者小路実篤、有島武郎の三人の作家の考察をし、それを通して白樺派の特質や問題点を考えてみたい。テキストは用いずノートによるが、プリントを配布することがある。

## 国文学特講 I

近藤 瑞 男

人形浄瑠璃の代表作『義経千本桜』をとり上げる。『菅原伝授手習鑑』『仮名手本忠臣蔵』と並んで三大傑作といわれ、源義経を主人公としたいわゆる「判官物」の集大成である。人形浄瑠璃史の上でも、合作制度によって生みだされたスケールの大きさでは群をぬく。ビデオなども使用し、古典芸能の理解を深めながら授業をすすめたい。

〔教科書〕影山 隆編『義経千本桜』（笠間書院）

¥1,000

## 国文学特講 I

渡辺 守邦

近世の翻訳・翻案文学をテーマとする。外国文学と近世との結びつきは、やや意外かもしれない。しかし、織豊期に体験した東西両世界の文化の洗礼は、長く影響を留めたものようである。その実態を、ヨーロッパ文学最初の翻訳『伊曾保物語』に探ってみることから始めたい。

〔教科書〕『古活字版・伊曾保物語』（勉誠社）

¥2,000

## 国文学特講Ⅱ

岩佐美代子

『千載和歌集』。中世最初の勅撰集であり、新古今集を生み出す基盤となったこの集を演習形式で読みたい。注釈書は無いに等しいので、自力による和歌読解の力を養い、多くの作品を読みなれる事を目的とする。

〔教科書〕久保田淳校注『千載和歌集』（岩波文庫）  
¥550

## 国文学特講Ⅲ

小林正明

宇治十帖を読む。とくに読みの方法論に留意したい。文学論としては、対象の宇治十帖それと読みの方法論、その両方がねらいです。むろん宇治十帖とはなにか、浮舟とはだれか、などなど、その手の発問はわすれてはならない初心でしょう。すなおな直感も大切にしたいです。と同時に、大学のレベルで読むのだから、読みの認識論には自覚的でありたい。読むということは、はたして自明でありうるか。まあ、そんなわけで、私流に言えば、女三宮とは提婆達多品の龍女になり、浮舟はかぐや姫というわけです。具体的には、古註釈も加味しながら、近年のテキスト論や構造主義の方法論を吟味していくことになるはずです。

〔教科書〕北村季吟著・有川武彦校訂『源氏物語湖月抄（下）増注』（講談社学術文庫）¥2,000

〔参考書〕藤井貞和編『別冊国文学 王朝物語必携』（学燈社）¥980

## 国文学特講Ⅳ

牧野和夫

中世文学の周辺をめぐる。諸種の資料を紹介しつつ、漢籍受容の問題、民間信仰にかかわる問題などを講ずる予定である。

又、従って、その前提となる書誌的知識を「実物」を通して、学んで戴くことになろう。

## 中国文学

中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響

を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義校註』（汲古書院）¥3,000

## 中国文学演習

中村璋八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の智慧の結晶でもある易の書は、その後、儒家の根本經典、五經の第一に位置付けられ、「易経」として重要視され、長い時代、多くの人々に読まれた。この易は、占トの書であると共に中国人の世界観、人生観をも記したものであり、中国の思想、宗教、文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけでなく、日本の文学、宗教、習俗、建築など広い範囲に、その影響が見られる。この「易経」を南宋の朱子の註に拠って読んで行き、中国人の考え方を究めると共に中国古典、日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。

〔教科書〕プリント

## 中国文学概論

篠原壽雄

中国文学全般にわたって概観できるようにつとめる。このために中国文学の歴史研究を中心にして、その時代相と文人と、その文学作品を学ぶ。なお、日本文学との関連作品なども併せ講じたい。

〔教科書〕吉川幸次郎『中国文学史』（岩波書店）  
¥1,600

## 仏教概論

山内舜雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的展開に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

## 東洋思想研究

館野正美

中国哲学の源流をなすと考えられる、中国古代の、いわゆる「諸子百家」の各学説を講義する。

諸子百家の中でも、特に、孔子・孟子・荀子らに代表される「儒家」、墨子の「墨家」、そして老子や荘子ら

の織りなす「道家」、以上三学派を中心に講じてゆきたい。

かくして、中国哲学の一典型を明らかにしたいと考えている。

〔参考書〕授業中に紹介します。

## 日本史概説Ⅰ（古代・中世）

渡辺直彦

平安時代の諸様相について概観する。

〔教科書〕『日本の歴史5 王朝の貴族』（中公文庫）  
（中央公論社）¥640

## 日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するように努めたい。教科書は特定しない。

〔参考書〕『地方史研究必携』（岩波書店）¥4,800

## 日本文化史Ⅰ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、中世から近世にかけての文化について詳述する。その際には絵巻物等の分析をも試みたいと思う。

〔参考書〕参考史料は随時コピーして配布。

## 書道史

谷村義雄

文字の発生から書体の変遷、書風の変化、書法の成立の過程を、まず中国に於ける書の歴史を辿り、また日本での独自の展開を概観する。本学では書道科の教職過程として開講しているので、書道史を中心に講義する。従って美術史も内容は書道史の延長とする。

〔参考書〕神田喜一郎『中国書道史』（岩波書店）  
¥5,800

『書の歴史』（二玄社）¥1,800

## 書道実習Ⅰ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月頃まで）は楷行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書『高貞碑』を細かに深く研究する。

〔教科書〕『書道Ⅰ』（高校用教科書）（教育出版）  
『高貞碑』（書学名蹟選）（日本書道資料協）

## 書道実習Ⅱ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月頃まで）は楷行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国王羲之の行書『集字聖教序』を細かに深く研究する。

〔教科書〕『書道Ⅱ』（高校用教科書）（教育出版）  
『集字聖教序』（書学名蹟選）  
（日本書道資料協）

## 美術史概説

林良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

## 美術史

谷村義雄

書道科の教職課程として開講する関係上、講義や内容は書の歴史とする。

〔参考書〕『書の歴史』（二玄社）¥1,800

## 現代美術

宮崎克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的

作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

## 編集実務

宇賀田 達 雄

編集者は何を考え、どのような仕事をしているのか。編集者が知っていなければならないことは何か。編集者に必要な技術とはどんなものか — この講義では、主として雑誌づくりのために必要な知識を中心に、編集の現場での仕事のやり方を、できるだけ実技を通して伝えようと思う。将来マスコミ方面に進む人には当然必要な知識だが、情報化時代の今日、官庁でも企業でも団体でも広報誌、会報、カタログ、広告など、いろいろな形の印刷物を作る機会がふえているので、そういう場合にも対応できるように、編集の実務に必要なことをまとめてみたい。

〔参考書〕『編集校正便覧』（印刷学会出版部）¥250

## 英米文化

金 関 寿 夫

アメリカの文化を主として美術と文学との相関々係を中心に歴史的に考察、そのアメリカ的性格をさぐる。

また音楽、演劇、映画にも言及することもある。（スライド使用）

〔参考書〕教場で示す。

## 日本民俗学

渡 邊 欣 雄

本年度は日本各地に現在でもみられる饗宴の民俗に焦点をあてて、日本のみならず世界各地で行なわれている種類の風俗習慣について解説する。日本民俗学者は饗宴の語義からさまざまな起源論を展開してきた。宴（うたげ）とは柳田国男が唱えたように事の真相を打ち明けるウチアケだったのか、折田信夫が唱えたように客人を迎えるための拍手礼式たる拍ち上げ（ウチアケ）だったのか。はたまた大間知篤三の言うように事の終りを意味する打ち揚げ（ウチアゲ）だったのか。饗宴の語義論から象徴論まで拡大していくと、世界の至るところに客人を招いての共食儀礼が豊富にみられ、日本民俗との共飲の世界を垣間見ることができる。

〔教科書〕伊藤幹治・渡邊欣雄『宴（うたげ）』

（弘文堂）¥1,500

## 英米文学科

### 基礎教育科目

英文学概論(荒井 良雄) .....	85
米文学概論(金関 寿夫) .....	85
基礎英語ⅠA(東 雄一郎) .....	85
基礎英語ⅠA(河崎 征俊) .....	85
基礎英語ⅠA(坂本 武) .....	85
基礎英語ⅠB(T.W. Killough) .....	85
基礎英語ⅠB(N. Readdy) .....	85
基礎英語ⅠB(T.J. Wright) .....	86
基礎英語ⅡA(東 雄一郎) .....	86
基礎英語ⅡA(河崎 征俊) .....	86
基礎英語ⅡA(坂本 武) .....	86
基礎英語ⅡB(J.S. Lander) .....	86
基礎英語ⅡB(N. Readdy) .....	86
基礎英語ⅡB(R.B. Shelly) .....	86

### 専門教育科目

英文学概論(大沢 一雄) .....	87
英作文Ⅰ(東 雄一郎) .....	87
英作文Ⅰ(岡田 尚) .....	87
英作文Ⅰ(佐藤 千春) .....	87
英作文Ⅰ(坂本 武) .....	87
英文学史Ⅰ(河崎 征俊) .....	87
英文学史Ⅱ(中岡 洋) .....	87
米文学史(佐藤 千春) .....	87
英語史(岡田 尚) .....	88
音声学(坂本 武) .....	88
英米語学演習(英作文Ⅱ)	
(昭和57年度以前入学生:批評論研究)	
(佐藤 千春) .....	88
英米語学演習(英作文Ⅱ)	
(昭和57年度以前入学生:批評論研究)	
(坂本 武) .....	88
シェイクスピア(荒井 良雄) .....	88
英文学演習Ⅰ(中世)(河崎 征俊) .....	88
英文学演習Ⅱ(英文学16・17c.)	
(河崎 征俊) .....	88
英文学演習Ⅳ(英文学18c.) (小林 亨) .....	88
英文学演習Ⅴ(詩19・20c.) (中岡 洋) .....	88
英文学演習Ⅵ(小説Ⅰ 19c.) (中岡 洋) .....	89
英文学演習Ⅶ(小説Ⅱ 20c.) (飯島 淳秀) .....	89
英文学演習Ⅷ(批評19・20c.) (東 雄一郎) .....	89
米文学演習Ⅰ(詩)(金関 寿夫) .....	89
米文学演習Ⅱ(小説Ⅰ)(佐藤 千春) .....	89
米文学演習Ⅲ(小説Ⅱ)(佐藤 千春) .....	89

米文学演習Ⅳ(小説Ⅲ)(田中 剛) .....	89
米文学演習Ⅴ(批評)(土岐 恒二) .....	89
米文学演習Ⅵ(小説Ⅳ)(寺門 泰彦) .....	89
英米演劇演習(荒井 良雄) .....	90
英文学特講Ⅰ(英文学16・17c.)	
(石原 孝哉) .....	90
英文学特講Ⅱ(英文学18c.) (小林 亨) .....	90
英文学特講Ⅲ(詩19・20c.) (河崎 征俊) .....	90
英文学特講Ⅳ(小説Ⅰ 19c.) (中岡 洋) .....	90
英文学特講Ⅴ(小説Ⅱ 20c.) (飯島 淳秀) .....	90
英文学特講Ⅵ(批評19・20c.) (丸小 哲雄) .....	90
米文学特講Ⅰ(詩)(東 雄一郎) .....	90
米文学特講Ⅱ(小説Ⅰ)(佐藤 吉介) .....	90
米文学特講Ⅲ(小説Ⅱ)(山縣 敏夫) .....	91
米文学特講Ⅳ(小説Ⅲ)(田中 剛) .....	91
米文学特講Ⅴ(批評)(佐藤 吉介) .....	91
英米演劇特講(落合 和昭) .....	91
英米語学演習(言語学)(大沢 一雄) .....	91
英米語学演習(英語史)(岡田 尚) .....	91
英米語学演習(英文法)(岡田 尚) .....	91
英米語学演習(英会話)(W.D. Hubbard) .....	91
英米語学演習(英会話)(N. Readdy) .....	91
英米語学演習(英会話)(T.J. Wright) .....	91
英米文化(金関 寿夫) .....	92
時事英語(大沢 一雄) .....	92
商業英語(町井 靖) .....	92
ラテン語特講(佐藤 玖美子) .....	92
日本文化史Ⅰ(廣瀬 良弘) .....	92
現代美術(宮崎 克己) .....	92

# 英 米 文 学 科

## 基礎教育科目

### 英文学概論

荒 井 良 雄

英文学入門として、イギリスの詩や小説や劇の背景となっているイギリス文化を、歴史、国民性、宗教、思想、教育、芸術などの分野と文学作品との関連において講義します。

〔参考書〕 荒井良雄『英語英文学と共に』（新樹社）  
¥2,000

### 米文学概論

金 関 寿 夫

米文学鑑賞研究に必要な時代背景、思想、文学批評などを解説、アメリカ文学の特質を明らかにする。

〔補助教科書〕 志村・八木著『アメリカの文学』（南雲堂）

〔参 考 書〕 教場で示す。

### 基礎英語 I A

東 雄 一 郎

平易な英文を通じて英語力を高める。言うまでもなく予習は必須。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

### 基礎英語 I A

河 崎 征 俊

英語の基礎力の向上をねらいとします。したがって、Reading, Transiation, Hearing, Compositionなどを中心とした総合的学習を行ないます。予習・復習を欠かさないことが大切です。

〔教科書〕 教場にて指示します。

〔参考書〕 未 定。

### 基礎英語 I A

坂 本 武

Tape使用を主体とする内容で、いわゆる「読んで訳して」ではない。毎時限「書取り」(Dictation)を実施し、いわゆるHearing(Understading)の能力向上につとめたい。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

### 基礎英語 I B

T. W. Killough

This course is structured to give the student a better facility in mastering the multi-dimensional skills of communicating in English. Emphasis is on individual self-expression.

〔教科書〕 Modern English Cycle Two : Book 1  
(Seido) ¥1,200

### 基礎英語 I B

N. Readdy

In the first semester, we will be using one of the textbooks in the English 900 Series. Emphasis will be placed on grammar, sentence structure, substitution drills and listening/comprehension skills. Group and individual participation is required.

In the second semester, we will be studying in preparation for the STEP Test level 3. Emphasis will be placed on pronunciation, intonation and individual speaking. The STEP Test is divided into two sections ; listening and speaking. This class will concentrate on the speaking part only as listening skills should have improved after the first semester.

There will be two examinations during the school year and students are required to attend both to receive a grade.

Textbooks ; 1st Semester. To be chosen later depending on the ability of the class as a whole.

2nd Semester. All materials will be supplied by the intructor.

### 基礎英語 I B

T. J. Wright

This class will cover the four skills of the language comprehension. Students will be expected to try to understand and communicate in English. The class will be challenging and educational.

〔教科書〕 Paul Gilbert 『愉快的ヒアリング』

(マクミランランゲージハウス) ¥1,500

長谷川潔 『コミュニケーションのための英語表現』 (桐原書店) ¥1,200

### 基礎英語 II A

東 雄一郎

平易な英文を通じて英語力を高める。言うまでもなく予習は必須。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

### 基礎英語 II A

河 崎 征 俊

英語の基礎力から応用力への向上をねらいとします。高度な英文構造の把握や、内容及び思考を必要とする Composition の演習を行ないます。予習・復習に努めて、積極的な学習を心がけることが大切です。

〔教科書〕 教場にて指示します。

〔参考書〕 未 定。

### 基礎英語 II A

坂 本 武

英検一級合格を目標とする英語総合力の養成につとめる。随時Tapeの使用をもってその効果を挙げたい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

### 基礎英語 II B

J. S. Lander

This class will focus on listening and speaking skills. (50% listening / 50% speaking). The text will be video-based and interesting. Grading is based on ACTIVE PARTICIPATION in class.

TEXT TO BE ANNOUNCED FIRST DAY OF CLASS.

### 基礎英語 II B

N. Readdy

Method and materials similar to that of 1st year students but on a more intermediate level.

〔教科書〕 See content for 1st year students.

### 基礎英語 II B

R. B. Shelly

〔教科書〕 Listen For It (student's book)

by J. Richards, D. Gordon, A. Harper

Publisher : Oxford University Press

# 専門教育科目

## 英語学概論

大 沢 一 雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、言語について研究する学問すなわち言語学の一部である。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語でEnglish philologyとかEnglish linguisticsといわれるのは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、語彙(い)論、意味論、語源論、文体論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的な研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

## 英 作 文 I

東 雄 一郎

基本構文から応用へと、ある程度自己の感情、思想を自由に英語で表現できるようになるためのtrainingを行う。しかし、英作文はあくまでもfour skills of English learningの一つであることを忘れずに。毎回、授業の始まりから20分間ほどの時間は、数問の小テストにあて、それを出席にかえる。授業に対するpreparationは必要不可欠。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

## 英 作 文 I

岡 田 尚

英文を書くことによって、英語の総合力の増進をはかりたい。積極的に発表し質問をして活気のある授業にしてほしい。テキストは教室で指示する。

## 英 作 文 I

佐 藤 千 春

易しい英文の表現で、自分の考えを自由に書き記すことができるようになることを目指す。基礎力を十分に養

ってもらいたい。テキスト、その他詳しい内容は授業開始の時に連絡する。

## 英 作 文 I

坂 本 武

一般的散文、時事文および手紙文等について巾広く採りあげる積りである。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕教場にて指示する。

## 英文学史 I

河 崎 征 俊

古代から中世をへて、ルネサンス及び18世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品などの説明を中心に講義します。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕未 定。

## 英文学史 II

中 岡 洋

英文学は世界に冠たる作品を数多く産み出してきた。Wordsworth, Scott, Austenらの時代以降それらの作品を年代順に跡づけ、現代に至る。不滅の作品群にふれる歓びを共に味わいたい。

## 米 文 学 史

佐 藤 千 春

一般にアメリカの歴史は17c. から始まると言えるが、この地への植民がどんな夢を抱いてなされたものかという序論に始まり、ピューリタニズム、18c. の合理主義、やがてロマン主義へと、歴史は時代の動向と文芸思潮をからませながら進んで行く。この流れにそって、どのような作家が、どのような精神で、どのような作品を書きあげたのかを探ってみる。講義はできるだけ作家、作品の羅列を避け、作家の中心思想、作品の主要テーマなどに焦点をしばり分析と解説を行いつつ、これを味わってみたい。

〔教科書〕井上謙治編『アメリカ文学史入門』（創元社）

## 英語史

岡田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕教室で指示する。

## 音声学

坂本 武

「調音音声学」の概要について、英語を主体とした流れの中で学習することが本講義の内容である。今更発音の修正など…と思わず、英米文学科生として必須の科目であると考え、第一歩から徹底的に取り組んでほしい。英語の母音、子音からはじめて、各論に至るまでの知識を得てほしいのである。英語専攻の学生が、「nativesの言うことが判らない」では困るので、英音、米音の区別等についても詳しくふれる。出欠は重視すると同時に、年間数冊のノートおよびTapeの提出を求める。

〔教科書〕教場にて指示する。

## 英米語学演習（英作文Ⅱ） （昭和57年度以前入学生：批評論研究）

佐藤 千春

すでに英作文Ⅰで十分な基礎力が身についたとの想定で、ここでは応用の段階に入ってみる。作文だけでなく、読むことも時に応じて行いたい。テキスト、その他詳しいことは授業開始の時に連絡する。

## 英米語学演習（英作文Ⅱ） （昭和57年度以前入学生：批評論研究）

坂本 武

英作文に関する作法、表現等については、既に英作文Ⅰにおいてそれらの基礎力は充分涵養済みと思われるので、この演習では、更に応用面、実用面についての実力を身につけるよう望んでやまない。

〔教科書〕教場にて指示する。

## シェイクスピア

荒井 良雄

シェイクスピアの人生観と劇作術と言葉の魅力を、『ロミオとジュリエット』を中心に講義します。生涯と

作品、批評史や上演史などにも言及しながら講義を進め、『ロミオとジュリエット』以外の劇からも引用しますので、特にシェイクスピアに関心の深い学生は、全作品を一冊に収録したThe Alexander Text(Collins)を持つのが望ましいと思います。

〔教科書〕『ROMEO AND JULIET』（『ロミオとジュリエット』）（研究社新訳注双書）

## 英文学演習Ⅰ（中世）

河崎 征俊

Chaucerの*The Canterbury Tales*やLanglandの*Piers Plowman*及びGawain-Poetの作品を読みます。中世英語の文法の習得から、中世後期の社会的背景・文化風土の認識をねらいとします。はじめは講義方式で進めますが、慣れてきたら各自に演習を課す予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕未定。

## 英文学演習Ⅱ（英文学16・17c.）

河崎 征俊

Shakespeareの*Hamlet*を読みます。作品はコピーにして渡しますので、予習を欠かさないこと。詩人の言葉のイメージを探究しながら、詩作品の読み方、とらえ方を演習の中で身につけてほしいです。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕教場にて指示します。

## 英文学演習Ⅳ（英文学18c.）

小林 亨

18世紀イギリス小説家の奇才、Laurence Sterneの作品*The Life and Opinions of Tristram Shandy, Gentleman*を、昨年に続いて読む。難解であるが幸い注釈書が出ているので、小説の好きな受講者には楽しめると思う。

〔教科書〕『小英文叢書』（研究社）¥760

## 英文学演習Ⅴ（詩19・20c.）

中岡 洋

英文学の華19、20世紀の代表的詩人たちの作品を鑑賞する。

## 英文学演習Ⅵ (小説Ⅰ 19c.)

中岡 洋

Emily Brontë作 *Wuthering Heights* (1847) について勉強する。

## 英文学演習Ⅶ (小説Ⅱ 20c.)

飯島 淳秀

20世紀イギリス小説(中篇または短篇)をよむ。毎回必ず当てやってもらうが、それもできるだけ頻繁に回るようにローテーションを組んでいく。前期と後期にそれぞれ課題レポート(即ち単位レポート)の提出が要求される。出席は重視される。テキストは最初のときに指示する。

## 英文学演習Ⅷ (批評19・20c.)

東 雄一郎

批評は勿論扱う作品の味読を前提とする。この演習では原典の力・本体である作品と先ず取組むことを主軸とする。前期は主として詩作品を扱い、実践批評を試みる。後期は小説作品を扱うが、「意識の流れ」の技法が駆使されたものを読み、討論して行く。英文学演習の名称になってはいるが、近代・現代批評の観点からして、必ずしもイギリス文学に固執するものではない。あわせて、T.S. Eliotの評論にも触れたい。自分自身で取り上げる作品を熟読することが批評書に先行し、そこから作家と読者の自由にして親密な個人的関係・共同の精神活動が生じる。後期の小説作品は短編が主となろう。

## 米文学演習Ⅰ (詩)

金 関 寿 夫

アメリカ詩の中から自然に関する名作を選び(ホイットマン、ディキンソン、フロストよりG. スナイダーまで)、アメリカ文学の自然観を検討する。  
テキストはプリント。

## 米文学演習Ⅱ (小説Ⅰ)

佐藤 千 春

Thomas Wolfe (1900~38)の世界は、精神の安らぎを求め、絶えまなく放浪する自我によって織りなされたも

のである。彼は故郷喪失に悩み、自我と外界との分裂に苦しんだ作家だった。魂の飢渴 — この言葉ほど似合っている作家はほかにいるだろうか。ここでは彼の短篇「ロスト・ボーイ」を中心に、その世界に入ってみることにする。

〔教科書〕西田 実解説註釈『トマス・ウルフ短篇集』(研究社)

〔参考書〕『トマス・ウルフ』〔20世紀英米文学案内6〕(研究社)

## 米文学演習Ⅲ (小説Ⅱ)

佐藤 千 春

アメリカ文学史上、1850年から1855年にいたる五年間は、“moment of adult health”と呼ばれる黄金時代であり、アメリカ文学が世界に誇る名作を続々と世に出した。「アメリカ・ルネッサンス」と呼ばれるのはこの時期のことである。ここでは、その代表的作家、エマソンをとりあげ、彼の格調高い文体に触れてみることにする。テキストその他に関しては、授業開始の時に連絡する。

## 米文学演習Ⅳ (小説Ⅲ)

田 中 剛

『緋文字』で知られるナサニエル・ホーソンの主要な短篇小説を取り上げ、この作家の特質を検討しつつ精読する。

〔教科書〕『詳注ホーソン短篇集Ⅰ』(南雲堂)

## 米文学演習Ⅴ (批評)

土 岐 恒 二

T.S. Eliotの評論から、読みやすい講演を選んで読んで行く。

〔教科書〕矢野禾積編註、T.S. Eliot: *Essays on Poetry and Criticism*, (松柏社) ¥1,900

## 米文学演習Ⅵ (小説Ⅳ)

寺 門 泰 彦

フォークナー、スタインベック、ヘミングウェイの短篇代表作を一編ずつ講読する。短篇とはいえ、それほど短いわけではない。また長篇に劣らぬ深さがある。

〔教科書〕Faulkner他: *Three Love Stories* (金星堂)

〔参考書〕その都度、紹介する。

## 英米演劇演習

荒井良雄

前期はイギリスのノーベル賞作家バーナード・ショーの代表作『セイント・ジョン』、後期はアメリカのノーベル賞作家ユージン・オニールの代表作『楡の木陰の欲情』を読みます。

〔教科書〕『セイント・ジョン』（金星堂）

## 英文学特講 I (英文学16・17c.)

石原孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』(三修社)

## 英文学特講 II (英文学18c.)

小林亨

18世紀の主要な散文作家5、6名を取り上げ、絢爛と花開いたイギリス近代小説の特質を考察する。講義だけでなく出来る限り作品に接することをこの講座の特徴としたい。

〔教科書〕教場にて指示する。

## 英文学特講 III (詩19・20c.)

河崎征俊

19世紀および20世紀の詩人について講義します。作品については、時々コピーを渡します。

〔教科書・参考書〕未定。

## 英文学特講 IV (小説 I 19c.)

中岡洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指定する。

## 英文学特講 V (小説 II 20c.)

飯島淳秀

小説の問題を中心に現代英吉利文学の20世紀的諸相について講義をする予定。特定のテキストは用いない。参考文献はそのつど伝える。前期及び後期にそれぞれ課題レポート(即ち単位レポート)の提出が求められる。他に教場テストが行われるばあいもある。出席は重視される。

## 英文学特講 VI (批評19・20c.)

丸小哲雄

文学テキスト(作品)を批判的に検討する講義と実践。講義では19、20世紀の批評の流れを概説して、フランスやドイツの影響を受けている英米の現代批評を眺め直す。とりわけ、ロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、ポスト構造主義といった文学理論の基礎に力点を置く。テキストの実践では、英米及び日本文学からテキストを選び、読み(物語構成を把握する視点のとり方)、解釈(隠された意味と主題を見つけること)、批評(集団の判断からテキストに抵抗すること)を論議する。楽しい知的サロンになることを願う。

〔教科書〕“A Reader's Guide to Contemporary Literary Theory” by Raman Selden (The Harvester Press, 1985)

〔参考書〕適宜に指示します。

## 米文学特講 I (詩)

東雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。清教徒主義の内向性と開拓者精神の外向性を常に遍在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissanceを展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、ModernismとPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

〔教科書〕新倉俊一著『英詩の構造』(駿河台出版社)  
〔参考書〕開講時に指示します。

## 米文学特講 II (小説 I)

佐藤吉介

アメリカ文学 — 特に19世紀の作品、Mark Twain, Ambrose Bierce, Stephen Crane, Nathaniel Hawthorne

などを用いて英語文学の風土背景を講述する。  
〔教科書〕プリント

### 米文学特講Ⅲ（小説Ⅱ）

山 縣 敏 夫

20世紀アメリカ文学，特に黒人作家やユダヤ系作家の作品をとりあげ，社会的変遷とのかわりあいについて研究する。

### 米文学特講Ⅳ（小説Ⅲ）

田 中 剛

1880年代から1910年代までのアメリカ文学の状況を文学思想，社会思想などの観点から解説する。また，この時期を代表する作家の作品を数篇選び，原書からの抜粋（コピー）を読みながら具体的に考える。  
〔教科書〕“The American Novels”（英潮社新社）

### 米文学特講Ⅴ（批評）

佐 藤 吉 介

アメリカ文学の作品を材料に使って批評の方法 — 分析，文体論，表現論，時間論 — を習得せしめるように講述する。最近の言語記号論も考察に入れてみたい。  
〔教科書〕プリント

### 英米演劇特講

落 合 和 昭

今年度は，ギリシャ時代から現代にいたる劇場史を概観し，そのうち，劇の構成要素（プロット，登場人物など）を考察し，じっさいに，悲劇と喜劇における構成要素の働きをみることにする。また，時間が許せば，現代の演劇の思潮にも触れてみたい。

また，講義用のテキストとしては，図や写真が数多くのっているアメリカの大学生用のテキストを用いる。課題としては，レポートを十回（一回につき，原稿用紙一，二枚程度）ほどを提出してもらう。

### 英米語学演習（言語学）

大 沢 一 雄

Noam Chomskyの著書または論文を読む。テキストは教場で指示。

### 英米語学演習（英語史）

岡 田 尚

17世紀にイギリスの植民者たちがアメリカにもたらした英語が，アメリカの国際的な地位の向上とともにイギリス英語に強い影響力を及ぼすようになった。このアメリカ英語の歴史と現状を発音，綴字，語彙，文法，語法について考えていく。プリント使用。

### 英米語学演習（英文法）

岡 田 尚

生きた英文に接しながら，伝統的な文法の知識を確認するとともに，どのような文法がよいかを考えてみたい。  
〔教科書〕教室で指示する。

### 英米語学演習（英会話）

W. D. Hubbard

Practical English Conversation for third and fourth year Students. A variety of dialogues, short plays and current topics will be used. Hearing and speaking emphasized.  
〔教科書〕American Talkabout Book2

### 英米語学演習（英会話）

N. Readdy

Method and materials similar to that of 1st year students but of a more advanced level.  
〔教科書〕See content for 1st year students.

### 英米語学演習（英会話）

T. J. Wright

This will be an intensive conversation class. We will study skills in listening comprehension and speaking. Students will be required to SPEAK in English. The class will be challenging-exciting and educational.

〔教科書〕長谷川潔『English From the Mass Media No. 4』〔1989年度版〕（金星堂）

Dean Curry 『RIGHT READING(Beginning Level)』(マクミランランゲージハウス)

## 英米文化

金 関 寿 夫

アメリカの文化を主として美術と文学との相関々係を中心に歴史的に考察, そのアメリカ的性格をさぐる。また音楽, 演劇, 映画にも言及することもある。(スライド使用)

〔参考書〕教場で示す。

## 時事英語

大 沢 一 雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと, 新聞, テレビ, ラジオ等のmass mediaすなわちマスコミで用いられる英語である。

## 商業英語

町 井 靖

日本企業の国際的進出は, 海外での子会社, 合併会社の設立, 外国企業の買収等めざましいものがあるが, 「商業英語」では「商品の輸出入に関する英文の手紙」を勉強します。

取引先の発見, 見積り, 交渉, 注文, 船積み等, 貿易取引の流れに従って良く使用される基本的表現の修得に重点を置く。貿易の専門用語, テレックスも解説したい。

〔教科書〕斎藤祥男『国際貿易英語通信』(梓出版社)

¥1,800

『貿易用語集』¥300

『商業英語英作文プリント』¥200

## ラテン語特講

佐 藤 玖 美 子

この講座は, 英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための, 古典ラテン語の基礎知識の習得, とくに文法規則を学び, 動詞, 名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して, やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕『初級ラテン語入門』(白水社)

## 日本文化史 I

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し, 中世から近世にかけての文化について詳述する。その際には絵巻物等の分析をも試みたいと思う。

〔参考書〕参考史料は随時コピーして配布。

## 現代美術

宮 崎 克 己

19世紀, 20世紀の西洋絵画について, 様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題(色彩, 空間など), 表現内容の問題(象徴性, 思想など), 社会的問題(展覧会の形式, ジャーナリズムとの関係など)等を, 代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜, 美術館, 展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

## 地理学科

### 基礎教育科目

基礎人文地理学(今朝洞 重美) .....	94
基礎人文地理学(長野 覚) .....	94
基礎自然地理学(長沼 信夫) .....	94
基礎自然地理学(早船 元峰) .....	94

### 専門教育科目

人文地理学実習(菱口 善美) .....	94
人文地理学実習(桜井 正信) .....	94
人文地理学実習(土谷 敏治) .....	94
人文地理学実習(長野 覚) .....	95
人文地理学実習(再クラス)(今朝洞 重美) .....	95
自然地理学実習(小池 一之) .....	95
自然地理学実習(高木 正博) .....	95
自然地理学実習(長沼 信夫) .....	95
自然地理学実習(早船 元峰) .....	95
自然地理学実習(再クラス)(中村 和郎) .....	95
野外巡検Ⅰ(小池 一之) .....	95
野外巡検Ⅰ(桜井 正信) .....	96
野外巡検Ⅰ(土谷 敏治) .....	96
野外巡検Ⅰ(長沼 信夫) .....	96
野外巡検Ⅰ(長野 覚) .....	96
野外巡検Ⅰ(早船 元峰) .....	96
日本地誌Ⅰ(今朝洞 重美) .....	96
外国地誌Ⅰ(山口 岳志) .....	96
経済地理学Ⅰ(土谷 敏治) .....	96
郷土地理学(長野 覚) .....	97
集落地理学(小川 徹) .....	97
地形学Ⅰ(今泉 俊文) .....	97
地 図 学(高木 正博) .....	97
交通地理学(生井澤 進) .....	97
地理学総論(小川 徹) .....	97
地理学総論(菱口 善美) .....	97
地理学総論(中村 和郎) .....	97
野外巡検Ⅱ(今朝洞 重美) .....	97
野外巡検Ⅱ(小池 一之) .....	97
野外巡検Ⅱ(菱口 善美) .....	97
野外巡検Ⅱ(高木 正博) .....	98
野外巡検Ⅱ(土谷 敏治) .....	98
野外巡検Ⅱ(中村 和郎) .....	98
日本地誌Ⅱ(宮口 侗迪) .....	98
外国地誌Ⅱ(内藤 正典) .....	98
経済地理学Ⅱ(生井澤 進) .....	98
地形学Ⅱ(今泉 俊文) .....	98
歴史地理学(桜井 正信) .....	98

人口地理学(上坂 修夫) .....	98
原書講読(梅原 弘光) .....	98
地球物理学(篠原 正雄) .....	99
地 質 学(小池 一之) .....	99
土壤地理学(漆原 和子) .....	99
気 候 学(中村 和郎) .....	99
海洋学及び陸水学(長沼 信夫) .....	99
環境地理学(早船 元峰) .....	99
日本地誌Ⅲ(中島 義一) .....	99
外国地誌Ⅲ(梅原 弘光) .....	100
都市地理学(今朝洞 重美) .....	100
計量地理学(土谷 敏治) .....	100
応用地理学Ⅰ(高木 正博) .....	100
応用地理学Ⅱ(今野 修平) .....	100
文化地理学(菱口 善美) .....	100
空中写真判読法及び測量学(小池 一之) .....	100
地理学特講Ⅰ(菱口 善美) .....	100
地理学演習(小川 徹) .....	100
地理学演習(今朝洞 重美) .....	101
地理学演習(小池 一之) .....	101
地理学演習(菱口 善美) .....	101
地理学演習(桜井 正信) .....	101
地理学演習(高木 正博) .....	101
地理学演習(土谷 敏治) .....	101
地理学演習(中村 和郎) .....	101
地理学演習(長沼 信夫) .....	101
地理学演習(長野 覚) .....	101
地理学演習(早船 元峰) .....	101

# 地 理 学 科

## 基礎教育科目

## 専門教育科目

### 基礎人文地理学

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」, 「考え方」とはどのようなものであるか, について事例を中心に説明する。

### 基礎人文地理学

長 野 覚

世界的視野において, 自然と人間活動の相関性を考えながら, 多彩な人文現象の基礎知識を, 系統地理的に講義する。テキストは下記のほか, 適宜プリントで補足する。受講に際して地図帳の併用を心掛けること。  
〔教科書〕藤岡謙二郎著『五訂 人文地理学』(大明堂)

### 基礎自然地理学

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために, 自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し, 第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお, 参考書は適時講義中に紹介する予定である。  
〔教科書〕『自然環境の生い立ち』(朝倉書店)  
¥2,200

### 基礎自然地理学

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく, かつ, 人間と密接なかわりをもつ第四紀の自然環境について講義する。

### 人文地理学実習

菱 口 善 美

この実習は, 人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解, および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち, (1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義, (2)産業や人口に関する統計資料の収集, 整理および図表化作業の修得, (3)地域を選定し, その地理学的説明のための図表およびレポートの作成, (4)一定地域の変化をテーマとして, 種々の資料にもとづくレポートの作成。

### 人文地理学実習

桜 井 正 信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが, とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は, そのつど指示し, 実習の成果をあげるようにする。

### 人文地理学実習

土 谷 敏 治

人文地理学の研究に必要な資料の収集, 既存の統計資料の整理・加工, 統計処理, 地図・図表の作成などの実習を行ない, 基本的な能力を身につける。毎回学習した内容について課題を与え, レポートを作成することを原則とする。コンピュータを使った実習も行なうので, 受講者は講習会を受け, 電子計算機室の利用者登録をしておくこと。

## 人文地理学実習

長野 覚

前期は地形図の読図に習熟するよう、土地利用図・地形段彩図・地形図模型などを作成し、人文現象と自然条件の相関性を考察する。後期は各自で収集した統計資料をもとにして、各種の統計地図類を作成することにより、主として人文現象の図化を習得する。

## 人文地理学実習（再クラス）

今朝洞 重美

地形図、都市図を利用して土地利用、宗教、集落など人文地理学に関する実習を行う。

## 自然地理学実習

小池 一之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査方法などについて実習を行う。

実習内容（予定）

1. 地形図の読図、主題図の作成
2. 各種統計データの整理方法
3. 空中写真判読（含現地調査）
4. その他

## 自然地理学実習

高木 正博

自然地理学を研究するうえで必要となる基礎的な諸事項の修得を目的とし、その手段として各種の作業を実施してもらおう。作業内容については、つぎのことがらを予定している。

1. 地形図、空中写真などを利用し、各種の主題図を作成する。
2. 各種計測器材を利用した野外調査や、統計資料の解析・図化など、授業の進捗状況に応じて指示する。
3. コンピュータを使用する予定なので、講習会を受け、電子計算機室の利用者登録をしておくこと。評価に際しては、提出物と出席の状況を重視する。

## 自然地理学実習

長沼 信夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方等を実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

〔参考書〕谷岡武雄ほか『新訂地理実習』（大明堂）  
三野与吉編『自然地理調査法』（朝倉書店）

## 自然地理学実習

早船 元峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行う。

前期

- 図上作業（切峰面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図等の作成）
- 資料の収集・整理・分析の方法
- 調査器械・器具の使用法

後期（班別）

- 粒度分析
- 空中写真判読（土地利用図・地形学図・標定図作成）
- 水調査（湖水・河川水・地下水の水温、水質等）
- 微地形・表層地質調査（元荒川・古利根川流域）

## 自然地理学実習（再クラス）

中村 和郎

自然地理学の基礎的な実習を行う。次の内容を予定しているが、実施の順序は変更することがある。

1. 計測（野外および机上で各種の計測を行う）
2. 統計処理（各種データの整理方法を学ぶ）
3. 地図化（主題図を作成する）
4. 読図（地図の読図を行う）
5. 空中写真判読（空中写真から必要な情報を読む）
6. 地上写真撮影（地理的事象を写真で表現する）

## 野外巡検 I

小池 一之

地理学とくに地形学を中心とする野外調査法を学ぶ。本年はフィールドを茨城県那珂川流域にとり、(1)海成段丘、(2)河岸段丘、(3)沖積平野、(4)関東ローム層などにつ

いて調査学習する。

〔巡検地〕茨城県那珂川流域

〔日 時〕6月第1週3泊4日

### 野外巡検 I

桜井正信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検します。巡検地は研究室前に発表します。

### 野外巡検 I

土谷敏治

都市圏の形成、都市内部の地域構造、産業、都市間の結合、交通問題などに重点を置いて巡検を行なう。また、参加者は各自、上記の重点に則したテーマを設定して現地調査を行ない、調査結果をレポートとしてまとめ提出する。巡検地域・期日はおって指示する。

### 野外巡検 I

長沼信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時（ガイダンス）に報告する。

1. 巡検地域：信濃川下流域（新潟県）
2. 巡検期日：平成元年7月上旬、3泊4日で実施。
3. 巡検テーマ：自然環境と人々の生活。

### 野外巡検 I

長野 覚

東北地方の日本海側について、男鹿半島・八郎潟・岩木山などを巡検し、海と平野と山岳の自然と人間生活のかかわりを学習する。八郎潟の干拓農村では、簡略な実態調査を実習する予定。3泊4日で6月に実施予定。

### 野外巡検 I

早船元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理的事象（自然的・人文的）を、学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

### 日本地誌 I

今朝洞 重 美

地誌学の本質を考察しつつ、「日本」、「日本各地方」の個性を追求する。

〔参考書〕『日本の地域－新しい日本地誌－』（森北出版）

### 外国地誌 I

山口 岳 志

アメリカ合衆国およびカナダ連邦の都市を中心とした地域システムについて講義する。その間、地域研究・都市研究・その他の国の事例についても言及したい。

〔教科書〕本間・有賀編『アメリカ研究入門』（第2版）（東京大学出版会）¥1,800

〔参考書〕山口岳志編『世界の都市システム』（古今書院）¥3,800

### 経済地理学 I

土谷敏治

経済現象を地理学の側面からとらえるために、1. 立地論（経済立地論、工業立地論）、2. 中心地理論、3. 都市の地域構造に重点を置いて講義を行なう。

### 郷土地理学

長野 覚

1. 国土面積の約3/4を占める山地の包蔵する山岳信仰文化の地域的特色を考察し、各自の郷土における山岳信仰を調査しレポートする。（前期）
2. 郷土の地域概念を理解するため、古代から現代に至る行政変化について学習し、各自で調査した成果をレポートする。（後期）

〔参考書〕『山岳宗教史研究叢書』（名著出版）

『地名大辞典』（角川書店）

『日本歴史地名大系』（平凡社）

## 集落地理学

小川 徹

居住の地理学という観点から、民家と村落構成の両側面について講義する。プリント・テキストは開講後指示する。巡検もその趣旨に沿って行うので、小川巡検を希望するものは、この科目を選択しておいて欲しい。

## 地形学 I

今泉 俊文

地形学の基礎的な部分を中心に話す。内的営力と外的営力にもとづく様々な地形の一般的解説を行う。

〔教科書〕指定しない

〔参考書〕貝塚爽平ほか編『写真と図でみる地形学』  
(東大出版会)

## 地図学

高木 正博

まず、地図の歴史をとおして、地図の重要性を認識する。つぎに、地図の作成・表現方法などのちがいによる多様な地図をもとに解説、利用法について講ずる。

授業内容に応じて作図実習を伴うので、定規、コンパス、分度器を揃えておくこと。

## 交通地理学

生井澤 進

商品の流れ(貨物流)の変化について、この変化の要因となる港湾・道路等諸施設の変化ならびに情報システムの変化に焦点を当てて、現在の交通体系を理解してゆく。

〔教科書〕講義の最初に指示する。

## 地理学総論

小川 徹

詳細は開講直後に指示する。講義の趣旨は「地理を学ぶことは如何なることか」を考えてゆくことである。各自もこのテーマに沿って、考えてみて欲しい。

## 地理学総論

菱口 善美

現代地理学の概念と主要な地域分析法について講義を行なう。

## 地理学総論

中村 和郎

「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆく。各自もこのテーマを十分考えてみて欲しい。

夏休み前にも試験を実施するので注意すること。

〔参考書〕高橋伸夫・中村和郎ほか編『地理学講座1』  
(古今書院) ¥2,900

## 野外巡検 II

今朝洞 重美

山陰地方(出雲、石見)・北陸地方(白山、金沢)いづれかの巡検を行う。実施時期は夏期休暇(7月)。

## 野外巡検 II

小池 一之

地理学とくに地形学を中心とする野外調査法を学ぶ。フィールドは、秋田県男鹿半島を予定する。(1)海岸段丘とその変形、(2)砂州の発達、(3)日本海中部地震と地形との関係などを学ぶ。

〔巡検地〕秋田県男鹿半島

〔日 時〕10月第2週ごろ 3泊4日

## 野外巡検 II

菱口 善美

目的: 地域の変貌についての実態調査とレポート作成  
調査地: 未定(ガイダンスの際に発表)

## 野外巡検Ⅱ

高木正博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長の一端を明らかにしたい。

現地では、班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

期日・内容については、ガイダンスの際に発表する。

## 野外巡検Ⅱ

土谷敏治

都市圏の形成、都市内部の地域構造、産業、都市間の結合、交通問題などに重点を置いて巡検を行なう。また、参加者は各自、上記の重点に則したテーマを設定して現地調査を行ない、調査結果をレポートとしてまとめ提出する。巡検地域・期日はおって指示する。

## 野外巡検Ⅱ

中村和郎

長野県川上村で自然・人文地理学の基礎的調査法を学ぶ。5月下旬に3泊4日で実施する予定であるが、詳細はガイダンスの際に指示する。

## 日本地誌Ⅱ

宮口侗迪

この講義では、できるだけ広い世界の中で日本を理解する視点と、その日本がどういう地域から成立しているかという問題を共に扱う。具体的には、日本の村落景観の原型と風土、水田耕作の展開、山村の諸問題、北海道と沖縄をみる文化的視点といったところであるが、非日本の世界にもふれる。

## 外国地誌Ⅱ

内藤正典

広い意味での地中海地域の地誌。

ヨーロッパとアジアの接点に位置するトルコから始めて、ヨーロッパ、そして中東地域を、人文地理学の視点からどのように理解していくかを考える。講義の性格上、出席を重視する。

## 経済地理学Ⅱ

生井澤 進

地方における生活活動の中心となる商業活動について、商店街形成という観点から分析、講義を行う。夏季休暇中に各自調査を行い、レポートを作成することを条件とする。

〔教科書・参考書〕講義中にその都度指示する。

## 地形学Ⅱ

今泉俊文

“動かざること大地のごとし”と言われるが、変動帯に属する日本の地形は、活発な地殻変動のもとで形成されている。変動地形を中心に講義を行う。

〔参考書〕貝塚爽平ほか編『写真と図でみる地形学』

(東大出版会)

笠原慶一ほか編『岩波講座 地球科学10』

(岩波書店)

## 歴史地理学

桜井正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

## 人口地理学

上坂修夫

人口現象は、社会地理、歴史地理、経済地理などの重要な構成要素であるが、それは単に量として捉えるだけではなく、質(構造)的に深くほりさげる必要がある事象である。この講義では、人文地理の諸分野で人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに、いままで地理学ではあまり活用されなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加え、人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかかわり合い方について考えていく予定である。

## 原書講読

梅原弘光

熱帯地域の農業に注目して、その人びとと環境との関係を考察する。

〔教科書〕 Jean-Paul Sajahau and Jurgen von Muralt, *Plantations and Plantation Workers*, (ILO, Geneva, 1987)

## 地球物理学

篠原正雄

「地球はいかにして宇宙の中に生まれたか」

川や風の流れのエネルギーは太陽に由来する。隕石による恐竜滅亡説もある。地球は宇宙の中で暮している。大陸移動のエネルギーは50億年前、銀河の一隅で生じた超新星爆発に由来する。岩石や生物の構成元素も恒星の深奥で形成された。地球は宇宙史の中で生まれた。

物理学は宇宙の共通語である。物理学の目で地球を見るということは、単に宇宙を地球の環境と見るにとどまらず、地球を無数の宇宙の天体の一つとして理解することを可能にする。100億光年彼方でブラックホールを生じる巨大天体と、地球とは、同じ方程式の2つの解である。本講義では、宇宙物理学を論じ、地球にも及ぶ。

〔教科書〕 力武常次『変動する地球とその環境』

(地球社) ¥2,000

## 地質学

小池一之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライド・ビデオをまじえる予定である。

〔教科書〕 ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅲ』

(東大出版会) ¥3,400

〔参考書〕 ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅰ・Ⅱ』

(東大出版会) 各 ¥3,400

貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』

(東大出版会) ¥4,200

## 土壌地理学

漆原和子

土壌の生成について解説し、多くの土壌生成因子のうち、特に時間、気候、地形について詳しく考察する。さらに人為によって、土壌がどのように変りつつあるかを

も考察する。

〔教科書〕 『地形と土壌』〔新地学教育講座9〕

(東海大学出版会)

〔参考書〕 『世界の土壌』(古今書院)

## 気候学

中村和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気候学の基本的諸概念と研究方法、世界諸地域の気候を学ぶ。

小テストを3回実施する。

〔教科書〕 中村和郎・内嶋善兵衛・木村龍治『日本の気候』(岩波書店)

## 海洋学及び陸水学

長沼信夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学(水文学)の立場から水に関するテーマを選び講義する。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

〔教科書〕 『海洋と陸水』〔新地学教育講座10〕

(東海大学出版会)

〔参考書〕 『水文学』〔自然地理学講座3〕(大明堂)

『日本の水』〔環境と人間の科学4〕

(三省堂)

## 環境地理学

早船元峰

自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて、土地利用、水利用を通じ歴史的観点をふまえて論じる。

## 日本地誌Ⅲ

中島義一

歴史地理学の諸問題に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳(高校生の時に使ったものでよい)を忘れずに持ってくる。

〔教科書〕 矢守一彦『空からみた歴史景観』(大明堂)

¥2,200

〔参考書〕 授業の際に紹介する。

## 外国地誌Ⅲ

梅原弘光

対象地域は東南アジア。1960年代以降この地域の農業と農村は大きな変化過程に入っているが、その実態を検討して変化の基本的性格を明らかにし、その空間的展開を考察する。

## 都市地理学

今朝洞重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次『都市地理学』（大明堂）

## 計量地理学

土谷敏治

地理学の研究に必要と考えられる計量的手法について解説する。学習した内容については課題を与え、レポートを作成することを原則とする。特に、コンピュータを使った実習を行なうので、受講者は必ず電子計算機室利用の講習会を受け、利用者登録をしておくこと。

〔参考書〕奥野隆史著『計量地理学の基礎』（大明堂）  
¥2,800

## 応用地理学Ⅰ

高木正博

河川と地域の関係を、災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕大矢雅彦著『河川の開発と平野』（大明堂）  
山田安彦編著『地域の科学』（古今書院）

## 応用地理学Ⅱ

今野修平

応用地理学として、地域開発論の講義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第四次全国総合開発計画および長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕『第四次全国総合開発計画』

『世界とともに生きる日本—経済運営5ヶ年計画—』

## 文化地理学

菱口善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

## 空中写真判読法及び測量学

小池一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること(課題数は年間5-6)。また、対数、三角関数(数学Ⅰ程度)の復習もしておくこと。実習も含まれる。

本年度は、自然地理の基礎となる写真判読法にも力を入れる予定である。

- (1)誤差論 (2)角の測定 (3)距離測定 (4)水準測量  
(5)多角測量 (6)地形測量 (7)写真測量 (8)写真判読法  
(9)リモートセンシング

〔教科書〕〔前期〕小田部和司『図解土木講座 測量学』  
(技報堂出版) ¥2,800

〔後期〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』  
(東大出版会) ¥4,200

## 地理学特講Ⅰ

菱口善美

教育職および一般就職のための地理学と関連する諸問題について講義を行なう。

## 地理学演習

小川徹

卒業論文の指導を中心にする。およその日程であるが、春休みに調査することを前提とするので、この点について前年12月から個別にガイダンスを行う。その内容は(1)テーマ決定・題目の検討(2)調査資料・調査方法の検討(3)秋学期に調査結果の報告と論述の検討。以後この日程にしたがって、各自少なくとも3回報告の必要がある。この規定は厳密に実施する。

## 地理学演習

今朝洞 重 美

地理学の本質論の研究と地誌学および一般地理学（人文地理学）に関する卒業論文の演習を行う。

## 地理学演習

土 谷 敏 治

前半は、各自の研究テーマに沿った論文の講読を通じ、卒業論文の作成法、調査方法、資料の収集・整理法の習得をする。後半は、研究・調査結果の中間報告を行ない、討論を重ねて論文完成をめざす。

## 地理学演習

小 池 一 之

前 期：地理学調査方法（野外調査・文献調査）の習得、調査資料の分析法、データの統計処理などについて学ぶ。

後 期：各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

## 地理学演習

中 村 和 郎

卒業論文の作成指導を中心に行う。テーマの決定、研究の進め方、文献収集とその読み方、資料の整理のし方、現地調査の方法、論文の書き方、口頭発表のし方などについて指導する。

## 地理学演習

菱 口 善 美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては、各履修者の論文の主題に含まれる問題点の指摘と研究方法について、後期には、実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

## 地理学演習

長 沼 信 夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理・調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自の卒論テーマによる調査・研究成果を報告してもらう。

出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期・後期に各1回合宿（総合報告・中間検討会）を行う予定である。

## 地理学演習

桜 井 正 信

地理学の演習を通じて、最終学生の成果をあげるよう努力します。また卒業論文の作成の指導もしたい。

## 地理学演習

長 野 覚

卒業論文の作成を目標にして、前期は参考文献・資料収集・実施調査・成果の整理などの方法を指導する。後期は論文作成の進度に合わせて中間発表を行い、討論を重ねて内容を充実させ、完成までの指導をする。

卒業論文の提出後、論文内容の発表会を、一人15分程度で実施する。

## 地理学演習

高 木 正 博

卒業論文の作成指導を主体とする。まず、各自のテーマや、参考文献・資料の選択整理、現地調査の方法などを検討する。現地調査後は、各自その成果を発表し、討論のうえ論文作成へと導く。

## 地理学演習

早 船 元 峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成・現地調査・文献資料の収集・整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果の発表（中間報告）や関連した論文の内容の紹介をさせる。

# 歴史学科

## 基礎教育科目

基礎歴史学 (飯島 武次) .....	104
基礎歴史学 (廣 良弘) .....	104
基礎歴史学 (渡辺 惇) .....	104

## 専門教育科目

史学概論 (椽川 一朗) .....	104
日本史概説Ⅰ (古代・中世) (渡辺 直彦) .....	104
日本史概説Ⅱ (近世・近代) (木槻 哲夫) .....	104
東洋史概説Ⅰ (古代・中世) (阿部 肇一) .....	104
東洋史概説Ⅱ (近世・近代) (渡辺 惇) .....	105
西洋史概説Ⅰ (古代・中世) (椽川 一朗) .....	105
西洋史概説Ⅱ (近世・近代) (青木 道彦) .....	105
考古学概説Ⅰ (日本) (倉田 芳郎) .....	105
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次) .....	105
日本史学史 (葉貫 磨哉) .....	105
東洋史学史 (阿部 肇一) .....	105
西洋史学史 (前沢 伸行) .....	105
考古学史 (平井 尚志) .....	105
演習Ⅰ (久保田 真継) .....	106
演習Ⅱ (久保田 真継) .....	106
演習Ⅱ (所 理喜夫) .....	106
演習Ⅰ (葉貫 磨哉) .....	106
演習Ⅱ (葉貫 磨哉) .....	106
演習Ⅰ (廣瀬 良弘) .....	106
演習Ⅱ (廣瀬 良弘) .....	106
演習Ⅰ (南 和男) .....	106
演習Ⅱ (南 和男) .....	106
演習Ⅰ (山口 一之) .....	107
演習Ⅱ (山口 一之) .....	107
演習Ⅰ (渡辺 直彦) .....	107
演習Ⅱ (渡辺 直彦) .....	107
演習Ⅰ (阿部 肇一) .....	107
演習Ⅱ (阿部 肇一) .....	107
演習Ⅰ (渡辺 惇) .....	107
演習Ⅱ (渡辺 惇) .....	107
演習Ⅰ (椽川 一朗) (石川分) .....	107
演習Ⅱ (椽川 一朗) (石川分) .....	107
演習Ⅰ (椽川 一朗) .....	108
演習Ⅱ (椽川 一朗) .....	108
演習Ⅰ (飯島 武次) .....	108
演習Ⅱ (飯島 武次) .....	108
演習Ⅰ (加藤 晋平) .....	108
演習Ⅱ (加藤 晋平) .....	108
演習Ⅱ (倉田 芳郎) .....	108

日本史各説Ⅰ (渡辺 直彦) .....	108
日本史各説Ⅱ (久保田 真継) .....	108
日本史各説Ⅲ (土肥 鑑高) .....	108
日本史各説Ⅳ (山口 一之) .....	109
東洋史各説Ⅱ (古代) (宇都木 章) .....	109
東洋史各説Ⅳ (中世) (町田 隆吉) .....	109
東洋史各説Ⅵ (近世) (吉田 寅) .....	109
東洋史各説Ⅶ (近・現代) (渡辺 惇) .....	109
東洋史各説Ⅷ (周辺史) (片岡 一忠) .....	109
東洋史各説Ⅸ (周辺史) (光嶋 督) .....	109
東洋史各説Ⅹ (周辺史) (岡本 敬二) .....	109
西洋史各説Ⅰ (中村 道雄) .....	109
西洋史各説Ⅲ (伏島 正義) .....	110
西洋各国史Ⅰ (青木 道彦) .....	110
西洋各国史Ⅱ (加納 格) .....	110
西洋各国史Ⅳ (小沢 弘明) .....	110
考古学各説Ⅲ (江坂 輝彌) .....	110
考古学各説Ⅳ (小林 達雄) .....	110
古文書学 (葉貫 磨哉) .....	110
古文書講読Ⅰ (久保田 真継) .....	111
古文書講読Ⅱ (廣瀬 良弘) .....	111
日本史特講Ⅱ (中世) (宮本 由紀子) .....	111
日本史特講Ⅲ (中世) (久保田 真継) .....	111
日本史特講Ⅳ (近世) (土肥 鑑高) .....	111
日本史特講Ⅴ (近世) (有元 修一) .....	111
日本史特講Ⅵ (近代) (南 和男) .....	111
日本史特講Ⅶ (近代) (山口 一之) .....	111
東洋史特講Ⅰ (古代) (宇都木 章) .....	111
東洋史特講Ⅳ (中世) (町田 吉) .....	112
東洋史特講Ⅶ (近世) (阿部 肇一) .....	112
東洋史特講Ⅸ (近世) (長瀬 守) .....	112
東洋史特講Ⅹ (近・現代) (渡辺 惇) .....	112
東洋史特講Ⅺ (近・現代) (吉田 寅) .....	112
東洋史特講Ⅻ (周辺史) (片岡 一忠) .....	112
東洋史特講ⅩⅤ (周辺史) (光嶋 督) .....	112
東洋史特講ⅩⅦ (周辺史) (岡本 敬二) .....	112
西洋史特講Ⅰ (伏島 正義) .....	112
西洋史特講Ⅲ (三小田 敏雄) .....	113
西洋史特講Ⅳ (中村 純) .....	113
考古学特講Ⅱ (高浜 秀) .....	113
考古学特講Ⅳ (飯島 武次) .....	113
日本仏教史Ⅰ (廣瀬 良弘) .....	113
日本文化史Ⅰ (廣瀬 良弘) .....	113
西洋文化史Ⅲ (三小田 敏雄) .....	113
考古発掘実習 (寺社下 博) .....	113
考古学実習 (写真) (鈴木 昭夫) .....	113
考古学実習 (測量) (栗山 稔) .....	114
考古学実習 (石器) (田中 英司) .....	114
考古学実習 (土器) (酒井 清治) .....	114
地誌学 (今朝洞 重美) .....	114
地誌学 (長野 覚) .....	114
地誌学 (宮口 侗廸) .....	114
人文地理学概説 (小林 高壽) .....	114
歴史地理学 (桜井 正信) .....	114

哲学史（川戸 好武） .....	115
歴史哲学（麻生 建） .....	115
美術史概説（林 良一） .....	115
西域美術史（林 良一） .....	115
仏教美術（林 良一） .....	115
中国歴史文学（中村 璋八） .....	115
ラテン語特講（佐藤 玖美子） .....	115
日本民俗学（渡邊 欣雄） .....	115

# 歴史学科

## 基礎教育科目

### 基礎歴史学

飯島武次

考古学より見た東洋の歴史について。この科目名は、「基礎歴史学」であるが、担当教員（飯島）が専門とする東洋考古学の講義を行なう。

### 基礎歴史学

廣瀬良弘

歴史とは何か、なぜ歴史を学ぶのか、など歴史研究を行っていく上での基本的な問題をはじめとして、研究方法論や史料批判等について講述する。テキストはコピーして配布。ただし実費を徴収する。

### 基礎歴史学

渡辺惇

歴史に対する基礎的な見方、考え方を養う上で、素材としてアジアの歴史（中国、インド、東南アジア、西アジア、内陸アジア）をとりあげ、これについて幅広く講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

## 専門教育科目

### 史学概論

椽川一朗

歴史学的研究法とくに比較史的方法につき諸事例を挙げて講述する。

### 日本史概説Ⅰ（古代・中世）

渡辺直彦

平安時代の諸様相について概観する。  
〔教科書〕『日本の歴史5 王朝の貴族』（中公文庫）  
（中央公論社）¥640

### 日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。教科書は特定しない。

〔参考書〕『地方史研究必携』（岩波書店）¥4,800

### 東洋史概説Ⅰ（古代・中世）

阿部肇一

東洋史とくに中国史を中心に、政治社会の変化、展開をのべ、併せて文化史にも及ぶ。大体唐末、宋代中頃までについて、説明してゆく。

〔教科書〕『東洋史概説』（南雲堂深山社）¥1,500

## 東洋史概説Ⅱ（近世・近代）

渡 辺 惇

元・明・清代の政治、対外関係、社会経済、文化等について、総合的に講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕授業の中で指示する。

## 考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕江上波夫監修『考古学ゼミナール』

（山川出版社）1976年 ￥2,800

## 西洋史概説Ⅰ（古代・中世）

椽 川 一 朗

西洋古代より近代前期までの社会経済史および思想史を総合的に講述する。

## 日本史学史

葉 貫 磨 哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

## 西洋史概説Ⅱ（近世・近代）

青 木 道 彦

ヨーロッパの近世初頭から現代に至る歩みを概観するが、必要な限りにおいてヨーロッパ中世にもふれて講義したい。中世においては必ずしも他の文化世界に対して優位にたつてはいなかった西欧世界が、なぜ近代工業化の先頭にたつて、他の文化世界に強い衝撃を与えるようになったのかという問題を念頭において、受講して頂きたい。西洋史に関する平易な文献を指定し、読書レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない者には受験資格を与えないので、注意すること。

〔参考書〕祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）  
￥1,200

大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』

〔近現代編〕（ミネルヴァ書房）￥2,000

## 東洋史学史

阿 部 肇 一

とくに中国における歴史思想の展開について、古代より近代にいたるまでの説明を、それぞれを代表する著作を通して行う。

〔参考書〕内藤虎次郎著『支那史学史』

## 西洋史学史

前 沢 伸 行

欧米および日本の西洋史研究にいまなお大きな影響を与え続けているマックス＝ウェーバーの業績を、都市論（および市民論）を中心に検討しながら、現代歴史学をめぐる諸問題について考えてみたい。

〔教科書〕徳永 恂編『マックス・ウェーバー — 著作と思想』（有斐閣新書）￥750

## 考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

## 考古学史

平 井 尚 志

先ず考古遺物、遺跡についての古記録をのべ、17、18世紀に入るや欧州では古典文化、中近東の遺跡、遺物への関心が高まり、時を同じくして日本でも石器類を採集し同好知識人間の意見開陳も初まった。大英博物館を始め欧州首都の博物館の創設、個人の収集品を中心とした研究が考古学前史となる。19世紀に入り進化論に刺激さ









































































































































